



重要安全情報


本機をご使用になる前に以下の警告と注意をよくお読みください。

 危険	誤った取り扱いをすると感電等による死亡または重傷を負う危険性あるいは火災等が発生する可能性が高い操作・説明では、この危険マークを付記します。
---	--

《補足》重傷とは、失明、けが、やけど（高温、低温）、感電、骨折、中毒などで後遺症が残るもの、および治療に入院・長期の通院を要するものを指します。

 警告	誤った取り扱いをすると感電等による死亡または重傷を負う危険性あるいは火災等の発生が想定される操作・説明では、この警告マークを付記します。
---	--

《補足》重傷とは、失明、けが、やけど（高温、低温）、感電、骨折、中毒などで後遺症が残るもの、および治療に入院・長期の通院を要するものを指します。

 注意	誤った取り扱いをすると火災・感電・けが等、使用者が傷害を負うことが想定される、または物的損害の発生が想定される操作・説明では、この注意マークを付記します。
---	---

《補足》傷害とは治療に入院や長期の通院を要さないけが、やけど、感電などを指します。
物的損害とは家屋・家財および家畜・ペットにかかわる拡大損害を示します。

《電源に関する注意事項》	
■電源はAC100V（50/60Hz）です。安定した電源・電圧のもとでご使用ください。	
■タイムレコーダーの電源は終夜電源にし、他の機器電源と独立させてください。	
■本機はリチウム電池を内蔵しています。停電になっても内部時計は歩進しています。ただし、停電時はタイムレコーダーの打刻はできません。	

《上ぶたを開ける場合の注意事項》	
■上ぶたを開けてリボンカセット交換等を行うときは、スチールデスクなどの大きな金属に触れて静電気を除電して（取り除いて）から作業してください。 故障等の原因となることがあります。	

■絵表示の例■



高温注意

△記号は警告や注意を示します。具体的な警告や注意内容は△の中に絵で示します。



分解禁止

⊘記号は禁止の行為を示します。具体的な禁止内容は⊘の中に絵で示します。



プラグを抜く

●記号は強制する行為を示します。具体的な強制内容は●の中に絵で示します。

安全にお使いいただくために

本機をご使用になる前に以下の**警告**と**注意**をよくお読みのうえ、お守りください。

警告



定格電圧外禁止

- ・本機に表示した電源電圧以外の電圧で使用しない。
火災、感電の原因となります。



タコ足配線禁止

- ・電源は直接コンセントから取り、タコ足配線はしない。
火災、感電の原因となります。



ぬれ手禁止

- ・ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。
感電の原因となります。



禁止

- ・電源コードを傷つけたり、破損しない。
重い物を載せたり、引っ張ったり、無理に曲げたりすると電源コードを傷め、火災・感電の原因となります。



改造禁止

- ・本機を改造しない。
火災、感電の原因となります。



分解禁止

- ・本取扱説明書で取り外す手順を説明した部位以外は、分解したり触れたりしない。
内部に電圧の高い部分があり、感電の原因となります。



プラグを抜く

- ・万一、煙が出ている、へんな臭いがする、発熱するなどの異常が発生した場合は、すぐに電源プラグをコンセントから抜いて、弊社タイムレコーダー・サポートセンターへ連絡する。
そのまま使用すると火災、感電の原因となります。



プラグを抜く

- ・万一、異物(金属片、水、液体)が本機の内部に入った場合、すぐに電源プラグをコンセントから抜いて、弊社タイムレコーダー・サポートセンターへ連絡する。
そのまま使用すると火災、感電の原因となります。



定期清掃

- ・電源プラグはコンセントから定期的に抜いて、コンセントとの接触部分のほこりやゴミを乾いた布でよく拭き取る。
ほこりがたまり、火災の原因となります。



スプレー禁止

- ・可燃性のスプレー(ほこり除去スプレー、殺虫スプレー、除菌スプレーなど)を噴霧しない。
火災・爆発の原因になります。



有機溶剤禁止

- ・有機溶剤(ベンジン、シンナー、除光液など)を使用しない。
変形・溶解して、感電や火災の危険があります。

⚠ 注意



設置場所

- ・本機をコンセントの近くに設置し、電源プラグへ容易に手が届くようにする。

万一、異常が発生した場合は、電源プラグを抜く。



禁止

- ・ぐらついたり、傾斜した台などの不安定な場所に置かない。
落下したり、転倒したりしてけがの原因となることがあります。



水ぬれ禁止

- ・本機の上に水のいった容器やピンなどの金属物を置かない。
こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となることがあります。



禁止

- ・調理台や加湿器のそばなど油煙や湿気があたるような場所、ほこりの多い場所やゴキブリなどがいる場所に置かない。

火災、感電の原因となることがあります。



プラグを持って
抜く

- ・電源プラグを抜く場合は、電源プラグを持って抜く。
電源コードを引っ張るとコードが傷つき、火災、感電の原因となることがあります。



プラグを抜く

- ・リボンカセットを交換するときは、上ぶたを開けた後、電源プラグをコンセントから抜く。

そのまま交換するとけがや感電の原因になることがあります。



プラグを抜く

- ・本機を移動させる場合は、電源プラグを抜く。
電源コードが傷つき、火災、感電の原因となることがあります。



高温注意

- ・高温注意シールのところは触れない。
やけどの原因になることがあります。

本機の主な特長

- メモリー保持：停電になっても内部バッテリーにより、時計および設定内容は記憶維持され、復電時に元通りに自動対応します。(工場出荷時より累計停電時間で3年間保証します)
- 万年カレンダー：内部カレンダーにより大・小月やうるう年を自動的に判断します。
- お客様のオリジナルタイムカードにも対応できます。(有償にて調整します)
- 二色印字(黒・赤)切換ができます。〈EX9100/EX9300/EX9800〉
- 外部時報出力機能により、ブザーやベルを鳴らすことができます。〈EX9300/EX9800〉
- 内蔵スピーカーから電子メロディを鳴らすことができます。〈EX9300/EX9800〉
- あらかじめ決めた単位時間ごとの残業積算、フレックスタイム時間を印字できます。
〈EX9800〉
- 自動欄移動：出勤・退勤などの時刻に対応して、欄を移動させることができます。
〈EX9800〉
- フルパワーリザーブ：72時間または200打刻のどちらかに達するまで、すべての機能がお使いいただけます。(バッテリー満充電時)【工場出荷オプション】

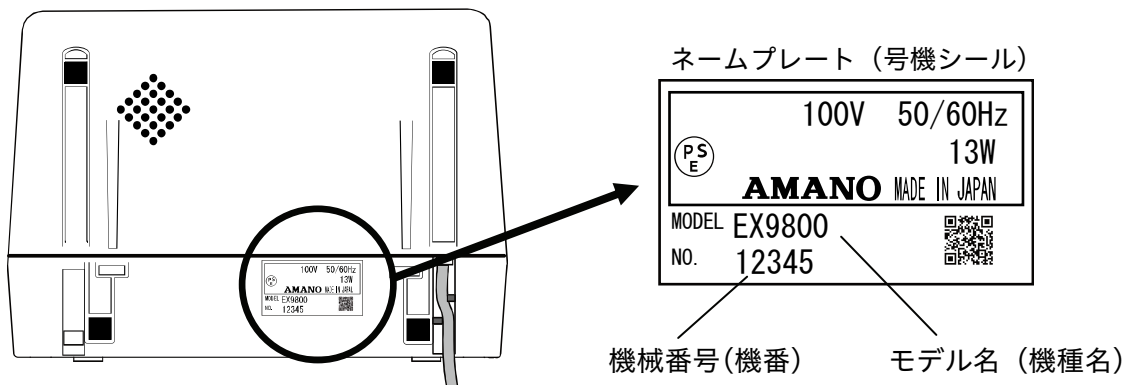
■モデルごとの機能一覧

EX9000シリーズには仕様の異なるEX9000/EX9100/EX9300/EX9800の4つのモデルがあります。

	単色印字 (黒)	二色印字 (黒赤)	外部時報出力	電子メロディ	自動欄移動	残業積算	フレックスタイム
EX9000	○						
EX9100		○					
EX9300		○	○	○			
EX9800		○	○	○	○	○	○

※フルパワーリザーブ(停電時印字機能)、親子機能(時刻同期)、時報2回路は工場出荷オプションとなります。(親子機能と時報2回路の共存はできません)

モデル名の確認方法



モデル名（機種名）は機械の底面に貼られたシールに記載がございます。
このシールでモデル名（機種名）をご確認ください。

★上図の場合、モデル名（機種名）は EX9800 です。

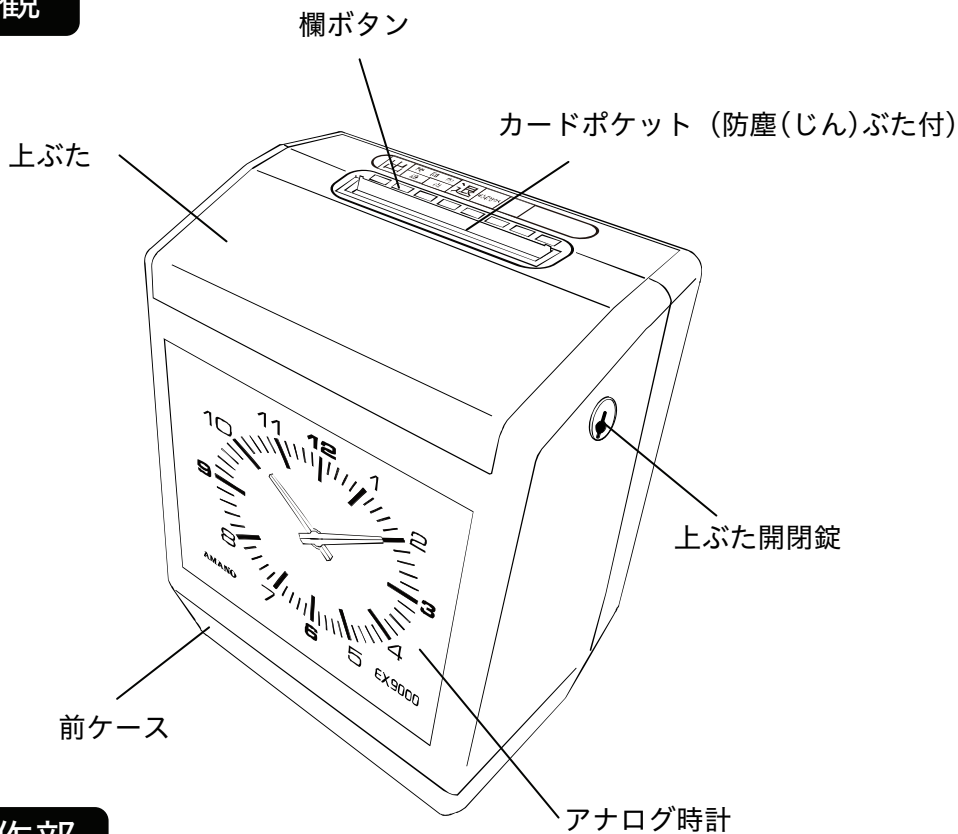
弊社支店・営業所、または弊社タイムレコーダー・サポートセンターにお問い合わせの際、
まずはモデル名（機種名）をお伝えください。

お問い合わせ内容によっては機械番号をお伺いすることもございますので、機械番号も合
わせてご確認ください。

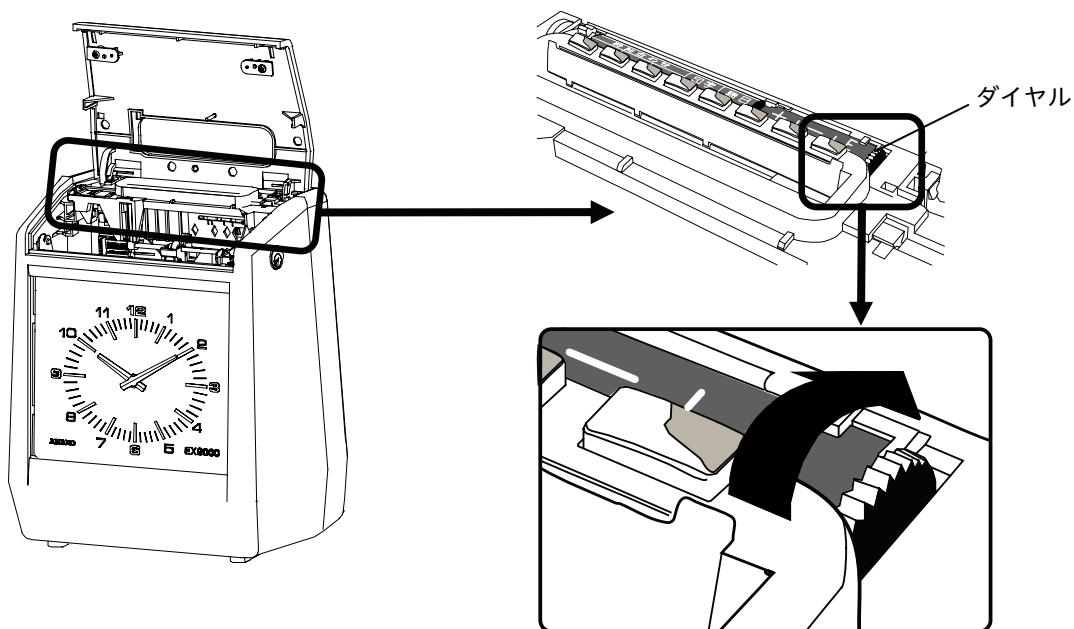
★上図の場合、機械番号は 12345 です。

各部の名称

外観



操作部



ダイヤルを指で回すことで、設定見出しを切り換えることができます。

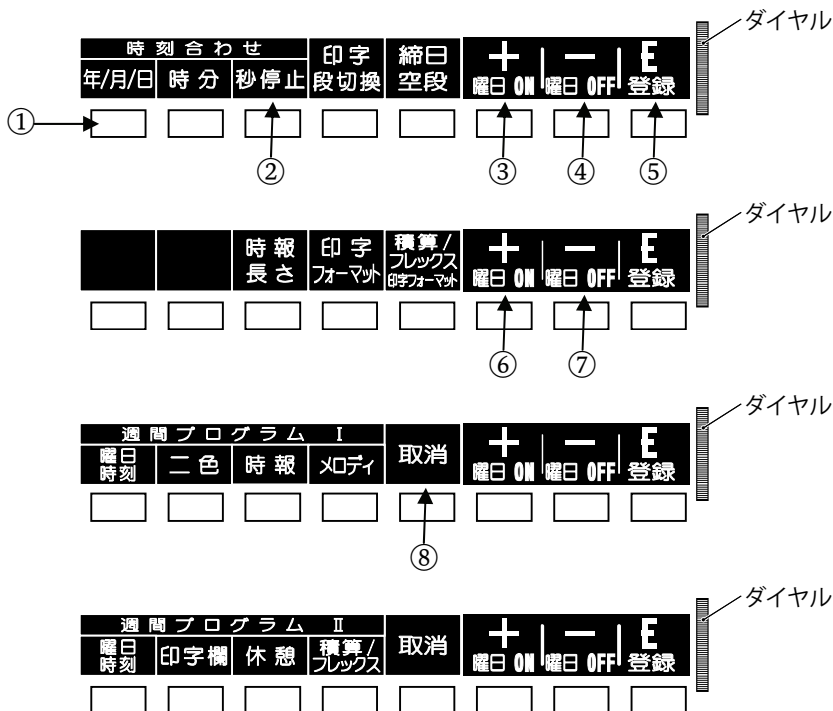
上ぶたを開けると各種設定ができるようになります。



設定見出しは4面あり、ダイヤルを回して設定見出しを回転させることで切り換わります。

目的の見出しの面に合わせて各々の設定操作を行います。

※時刻は全て24時制で設定します。

設定見出し一覧 (EX9800) …モデルにより、一部の項目名称が空白となります。



No.	名称	機能
①	項目ボタン	項目ボタンを押すことにより、各々の項目の設定ができます。
②	秒停止ボタン	押している間、時計が停止します。離れた瞬間が0秒となります。
③	+ボタン	1回押すと数値が+1します。押し続けると早送りします。
④	-ボタン	1回押すと数値が-1します。押し続けると早送りします。
⑤	Eボタン	+ボタン、-ボタンで変更した内容をEボタンで登録します。
⑥	 曜日 ON ボタン	週間プログラムを設定する際、ディスプレイ上の点滅している曜日に対して曜日 ON ボタンを押すと、曜日が点灯に変わり設定が有効となります。
⑦	 曜日 OFF ボタン	週間プログラムを設定する際、ディスプレイ上の点滅している曜日に対して曜日 OFF ボタンを押すと、曜日が消えて設定が無効となります。
⑧	取消ボタン	2秒以上押し続けることにより、表示している週間プログラム No.の内容を取消します。(2秒未満では画面のみ取消となり、設定内容は残ります)

使用するタイムカード

アマノ標準タイムカードをご使用ください。
 締日によりAカード、Bカード、Cカード、Dカードがあります。
 誤ったカード面（表裏反対）を挿入すると「ピピピピピ」とブザーが鳴り、印字できません。

NO.		氏名				
所		属				
タイムカード TIME CARD 年 月分						
日付	定時出	終業退	内出	定時退	時間外	小計
1						
2						
3						
4						
5						
6	NO.		氏名			
7	所		属		承認印 署名印 捺印	
8	就業	日	外	帰業	日	H
9	休日出勤	日	H	事故	日	H
10	早退就業	日	H	残業	日	H
11	深夜	日	H	私用外出	日	H
12	日付	定時出	終業退	内出	定時退	時間外
13						小計
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						
21						
22						
23						
24						
25						
26						
27						
28						
29						
30						
31						
所定労働時間		H	X	%	当 月	
不規則労働		H	X	%	出勤率	%
正規労働時間		H	X	%	年次有休	
残業時間		H	X	%	残日数	日

アマノAカード

Aカード
 月末/15日締め（両面）

NO.		氏名				
所		属				
タイムカード TIME CARD 年 月分						
日付	定時出	終業退	内出	定時退	時間外	小計
21						
22						
23						
24						
25						
26	NO.		氏名			
27	所		属		承認印 署名印 捺印	
28	就業	日	H	欠勤	日	H
29	休日出勤	日	H	事故	日	H
30	早退就業	日	H	残業	日	H
31	深夜	日	H	私用外出	日	H
1	日付	定時出	終業退	内出	定時退	時間外
2						小計
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						
所定労働時間		H	X	%	当 月	
不規則労働		H	X	%	出勤率	%
正規労働時間		H	X	%	年次有休	
残業時間		H	X	%	残日数	日

アマノBカード

Bカード
 20日/5日締め（両面）

NO.		氏名				
所		属				
タイムカード TIME CARD 年 月分						
日付	定時出	終業退	内出	定時退	時間外	小計
26						
27						
28						
29						
30						
31	NO.		氏名			
1	所		属		承認印 署名印 捺印	
2	就業	日	H	欠勤	日	H
3	休日出勤	日	H	事故	日	H
4	早退就業	日	H	残業	日	H
5	深夜	日	H	私用外出	日	H
6	日付	定時出	終業退	内出	定時退	時間外
7						小計
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						
21						
22						
23						
24						
25						
所定労働時間		H	X	%	当 月	
不規則労働		H	X	%	出勤率	%
正規労働時間		H	X	%	年次有休	
残業時間		H	X	%	残日数	日

アマノCカード

Cカード
 25日/10日締め（両面）

Aカード、Bカード、Cカードにはあらかじめ日付が印刷されています。
 締日に合ったカードをご利用ください。
 （上記以外の締日の場合は、日付の印刷がないDカードをご利用頂けます。）

※例えばAカードでは、おもて面（青色の印刷面）から使い始めると月末締めに、うら面（赤色の印刷面）から使い始めると15日締めになります。

オリジナルタイムカードへの対応

オリジナルタイムカードへの対応が可能です。(以下の仕様を満たす場合)
 対応には調整が必要です。弊社支店・営業所にご用命ください。(有償)



設置上の注意

設置場所のご注意

⚠ 注意 故障の原因となりますので、次のような場所に設置しないでください。



禁止

直射日光、熱源のそばには設置しない。



水ぬれ禁止

雨水のかかる場所には設置しない。



禁止

強い振動、衝撃を機器に与えない。



禁止

腐食性ガス、蒸気、塩害のある場所には設置しない。



禁止

調理台や加湿器のそばなど油煙や湿気があがるような場所、ほこりの多い場所やゴキブリなどがいる場所に置かない。

設置のしかた

台に置いて使用する場合は、水平な台に置いてご使用ください。

⚠ 注意



禁止

ぐらついたり、傾斜した台などの不安定な場所に置かない。
落下したり、転倒したりしてけがの原因となることがあります。



固定用具使用

本機を壁掛けする場合は、本機の重さを十分に支えることができる壁材に適した固定用具を使用する。
落下してけがの原因となることがあります。

本機は壁掛けでも使用することができます。
壁に掛けてご使用になる場合は 15 ページをご覧ください。

電源について

警告



定格電圧外禁止



ぬれ手禁止



禁止



分解禁止

・本機に表示した電源電圧以外の電圧で使用しない。
また、タコ足配線をしない。
火災、感電の原因となります。

・ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。
感電の原因となります。

・電源コードを傷つけたり、破損しない。
また、重いものを載せたり、引っばったり、無理に曲げたりすると電源コードを傷め、火災、感電の原因となります。

・本取扱説明書で取り外す手順を説明した部位以外は、分解したり触れたりしない。
内部に電圧の高い部分があり、感電の原因となります。



改造禁止



プラグを抜く



プラグを抜く

・本機を改造しない。
火災、感電の原因となります。

・万一、煙が出ている、へんな臭いがする、発熱するなどの異常状態のときはすぐに電源プラグをコンセントから抜いて弊社タイムレコーダー・サポートセンターに連絡する。
そのまま使用すると火災、感電の原因となります。

・万一、異物（金属片、水、液体）が機器の内部に入った場合は、すぐに電源プラグをコンセントから抜いて弊社タイムレコーダー・サポートセンターに連絡する。
そのまま使用すると火災、感電の原因となります。

注意



プラグを持って抜く

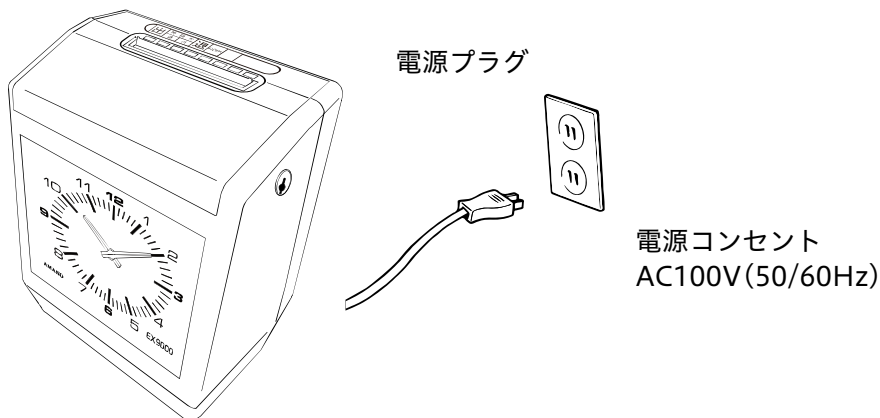
・電源プラグを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。
電源コードを引っ張るとコードが傷つき、火災、感電の原因となることがあります。



設置場所

・本機をコンセントの近くに設置し、電源プラグへ容易に手が届くようにする。
万一、異常が発生した場合は、電源プラグを抜く。

電源プラグを電源コンセントに差し込みます。



■電源、電圧は安定したところでご使用ください。

■電源は終夜電源にして、他の機器と独立させてください。

■電源プラグを定期的に抜き、その周辺およびコンセントにたまったほこりや汚れを乾いた布で拭き取ってください。

ほこり、湿気、油煙の多いところで電源プラグを長期間差したままにすると、その周辺にたまったほこりが湿気を吸って絶縁不良となり火災の原因となります。

前ケースの外しかた

警告



ぬれ手禁止

- ・ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。
感電のおそれがあります。



分解禁止

- ・本取扱説明書で取り外す手順を説明した部位以外は、分解したり触れたりしない。
内部に電圧の高い部分があり、感電の原因となります。

注意



プラグを抜く

- ・電源プラグを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。
電源コードを引っ張るとコードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

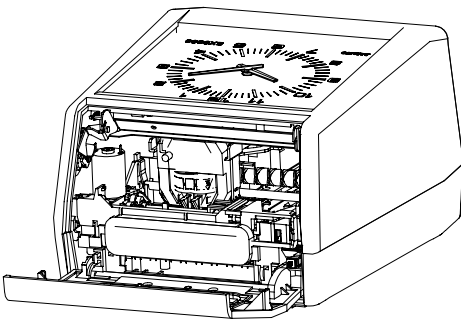
壁掛け、メロディ音量の調整、メロディグループの選択、バッテリーの接続などの作業を行う場合には、前ケースを外す必要があります。

1 電源コンセントからプラグを抜きます

※前ケースを戻すまでは電源プラグはコンセントに差し込まないでください。

2 上ぶたを開けます (25 ページ参照)

3 本体の背板側を下にします

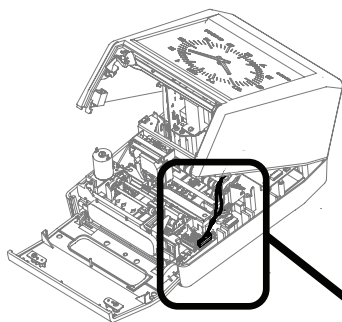


前ケースを外す際は、必ず本体の背板側を下にしてから外してください。

(壁かけの状態は除きます)

背板側を下にしないで前ケースを外しますと、後ケース部が倒れることがあります。

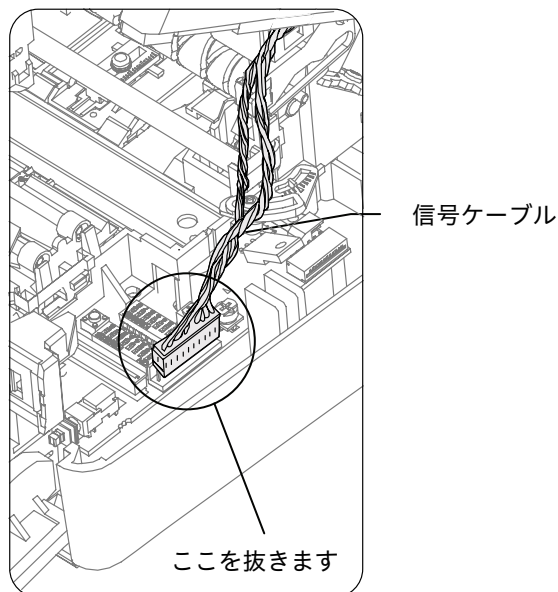
4 前ケースに接続されているケーブルを抜きます



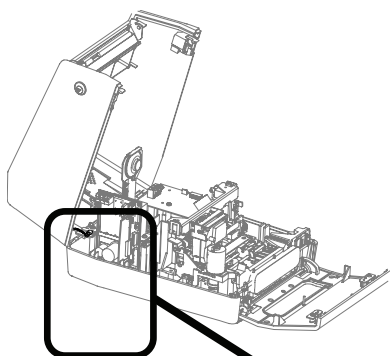
上部にある左右フックを押し広げ、前ケースの上部を 30 度程度まで持ち上げます。

前ケースとメイン基板を接続している信号ケーブルをコネクタから抜きます。

このとき前ケース側に残る信号ケーブルはそのままにしてください。

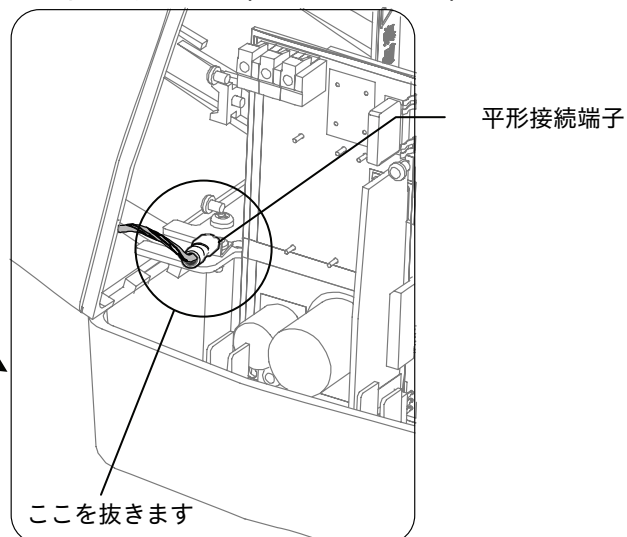


5 前ケースに接続されているアース線を抜きます



さらに前ケースの上部を 90 度程度まで持ち上げます。

前ケースと電源基板を接続しているアース線を平形接続端子（ファストン端子）から抜きます。



6 前ケースを外します

前ケースの戻しかた

警告



ぬれ手禁止

- ・ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。
感電のおそれがあります。



分解禁止

- ・本取扱説明書で取り外す手順を説明した部位以外は、分解したり触れたりしない。
内部に電圧の高い部分があり、感電の原因となります。

注意

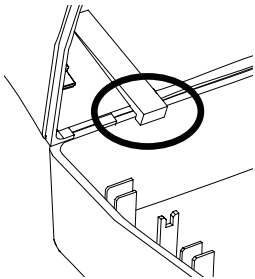


プラグを抜く

- ・電源プラグを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。
電源コードを引っ張るとコードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

1 前ケースのツメを後ろケースに引っ掛けます

ツメは左右にあります。

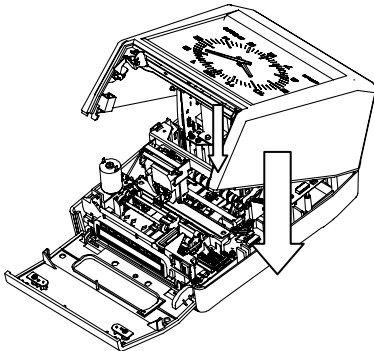


2 アース線を電源基板に接続します (前ページ手順**5**参照)

3 信号ケーブルをメイン基板に接続します (前ページ手順**4**参照)

コネクタの向きにご注意ください。

4 前ケースを本体に取り付けます



5 上ぶたを閉めます

元の状態に戻りましたら、電源プラグをコンセントに差し込んでください。

壁に掛けて使用する場合

壁に掛けてご使用いただくことができます。

警告

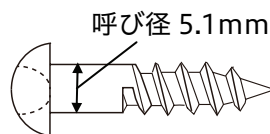


固定用具を使用

- ・本機を壁掛けする場合は、本機の重さを十分に支えることができる壁材に適した固定用具を使用する。
落下してけがの原因となることがあります。

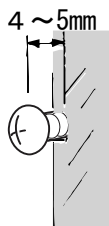
壁掛けが終わるまで電源プラグはコンセントに差し込まないでください。

呼び径 5.1mm の木ネジ（丸頭）を 4 本と
プラスドライバー、キリが必要です。



1 前ケースを外します（12 ページ参照）

2 木ネジを壁に取り付けます

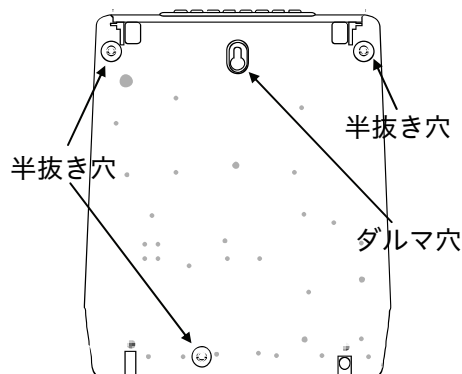


木ネジの頭を
4～5mm出します

- ・下穴を開けないと、壁材が破損する可能性があります。下穴を開けてからドライバーで締めこんでください。
- ・下穴は木ネジの呼び径に対して 70% くらいのおおきさを目安にキリなどを使用して開けてください。



・床から 94～124cm 程度のところに木ネジを付けると使いやすい高さになります。

3 本体背面にあるダルマ穴のシールを剥がし、半抜き穴(3箇所)を抜きます

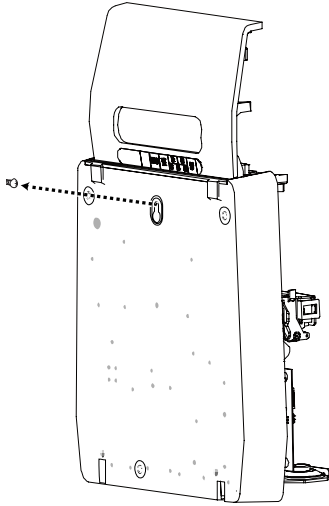


半抜き穴はケース内側よりドライバーで押し抜きます。

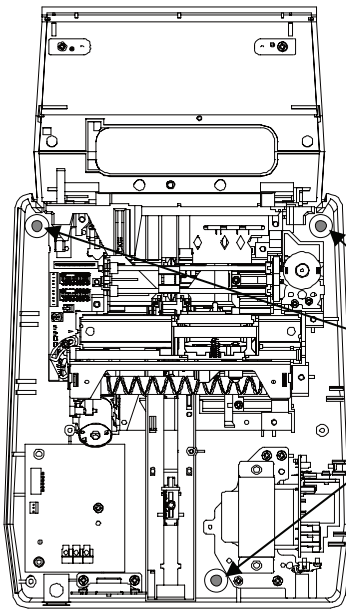
押し抜く際に、穴の外側に手などがあるとケガをする可能性がありますのでご注意ください。

(ダルマ穴 、半抜き穴 )

4 壁に取り付けた木ネジにケース後部のダルマ穴を引っ掛けます



5 残り 3 箇所を木ネジで固定します



手順**3**で抜いた 3 箇所の穴を木ネジで固定します。

この穴を木ネジで固定

6 前ケースを戻します (14 ページ参照)

すぐにご使用になる場合

下記の設定内容でしたら、電源プラグをコンセントに差し込むだけで、設定なしでもご使用いただけます。

設定内容：締日が“月末”または“15日”で、午前 3:00 をまたぐ勤務の人がいない場合は、そのままお使いいただくことができます。

- 締日 = 月末または 15 日 ・ A カードを使用します。
- 印字段の切換時刻 = 3:00 ・ タイムレコーダー上の 1 日の開始時刻です。
この時刻を境に、印字する段を切り換えます。

初期値一覧

内容	設定値	初期値	参照ページ
締日	01～31	31 (月末締め)	29
空段位置	01～32 (アマノ A、B、C カード使用時は、設定の必要がありません)	01 (1 段目)	29
印字段切換時刻	時 00～23 分 00～59	3:00	28
時報吹鳴時間	00～59 秒 〈EX9300/9800〉 00：時報出力しない	05 (秒)	32

内容	設定値	初期値	参照ページ	
印字フォーマット	①印字欄手動選択 0：手動選択あり 1：手動選択なし	0（あり）	33	
	②二重打刻防止機能〈EX9800〉 0：無効 1：有効	0（無効）	34	
	③分印字単位（積算/フレックス用）〈EX9800〉 1：60 進法 2：100 進法 A 3：100 進法 B 4：10 進法	1（60 進法）	35	
	④曜日印字 0：日付 1：英語 2：西語 3：仏語 4：独語 5：伊語 6：漢字 7：デイヤバー 8：曜日印字なし	0（日付）	36	
	⑤時印字表現 1：24 時間表示（時刻の 10 の位、0 印字なし） 2：12 時間表示 3：24 時間表示（時刻の 10 の位、0 印字あり）	1（24 時間）	37	
	⑥分印字表現 1：60 進法 2：100 進法 A 3：100 進法 B 4：10 進法	1（60 進法）	38	
積算/フレックス 印字フォーマット	単位時間（分）〈EX9800〉 00～60 分	00	39	
	積算/フレックス 1 〈EX9800〉	0～7（始業打刻欄=1） 0～7（終業打刻欄=1）		2 5
	積算/フレックス 2 〈EX9800〉	0～7（始業打刻欄=2） 0～7（終業打刻欄=2）		0 0

※印字欄手動選択〈EX9800〉

自動欄移動で設定された欄以外を出退ボタンで選択し、打刻できるか選択できます。

※二重打刻防止機能〈EX9800〉

二重打刻防止のため始業時刻から終業時刻は印字欄を選択しなければカードを挿入しても打刻させない機能です。

積算フレックスの設定にて始業・終業時刻の設定がされているときのみ二重打刻防止機能が有効となります。

※デイヤンバー

曜日を数字で表します。

月 = D1、火 = D2、水 = D3、木 = D4、金 = D5、土 = D6、日 = D7

	内容	設定値	初期値	参照ページ
週間プログラム I	二色	印字を切り換える内容〈EX9100/9300/9800〉 R：赤印字開始 B：黒印字開始	R（赤印字開始）	41
	時報	時報を鳴らす回路を決めます〈EX9300/9800〉 0：鳴らさない 1：回路1を鳴らす 2：回路2を鳴らす（拡張） 3：回路1、2の両方を鳴らす（拡張）	1	41
	メロディ	曲目を決めます〈EX9300/9800〉 0：鳴らさない スイッチ 下側 1：グリーンスリーブス（32秒） 2：峠の我が家（35秒） 3：ウェストミンスター（15秒） 4：2つのメヌエット（10秒） スイッチ 上側 1：アルルの女「メヌエット」（49秒） 2：四季「春」（33秒） 3：蛍の光（42秒） 4：新世界より（58秒）	1	41
週間プログラム II	印字欄	印字させる欄の位置を決めます〈EX9800〉 00～08欄 00：自動欄移動しない	00	43
	休憩	開始、終了を決めます〈EX9800〉 1：休憩開始 2：休憩終了	1	45
	積算/ フレックス	内容を設定します〈EX9800〉 積算 01：始業時刻 02：終業時刻 フレックス F1：フレックス開始時刻1 F2：標準始業時刻1 F3：標準終業時刻1 F4：フレックス終了時刻1 F5：フレックス開始時刻2 F6：標準始業時刻2 F7：標準終業時刻2 F8：フレックス終了時刻2	1	48

※週間プログラムを設定するときの注意点

複数の機能を同じ時刻に動作させるときは、必ず同じプログラム No.にまとめて設定してください。

毎日の使いかた

出勤・退勤の選びかた

■ 出退ボタンで、印字欄を選択して出退ボタンが点灯している欄に印字します。

■ 自動欄移動〈EX9800〉では、時刻に対応して欄を移動させることができます。

■ 次に出退ボタンを押すまでタイムカードの印字位置（欄）は変わりません。

ただし、自動欄移動の設定をしている場合には、打刻の完了もしくは無操作の状態で10秒経過すると設定されている印字位置（欄）に変わります。〈EX9800〉

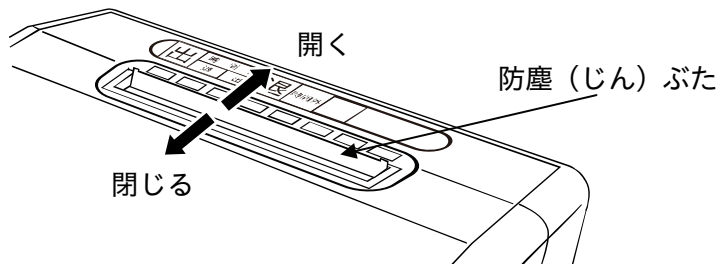
■ すでに印字されている欄を指定した場合、重ねて印字されます。



タイムカードの入れかた

出退ボタンの点灯位置を確認してタイムカードを軽く挿入します。カードは自動的に引き込まれ、印字した後に排出されます。

■ 防塵（じん）ぶたを確認してください。閉じているとタイムカードの挿入ができません。奥で開き、手前で閉じます。



■ 自動引込式です。無理に押し込んだり、印字中に引き抜いたりしないでください。

■ 付せん紙やクリップをつけた状態でタイムカードを挿入すると紙詰まりなどの原因になります。

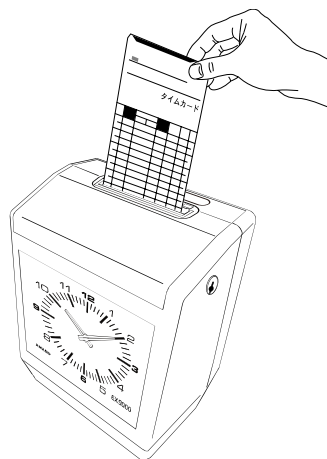
■ タイムカードに修正液・修正テープを使用しないでください。

■ 表裏判定機能

表裏を誤って挿入すると、カードは引き込まれずに排出され「ピピピピピ」とエラー音を鳴らします。

ただし、上下を誤って挿入すると印字してしまいますのでご注意ください。

（表裏判定機能はアマノ標準カード使用時に機能します）



■停電中について

停電中では内部時計以外はすべて停止します。復電の際には自動復帰します。

(フルパワーリザーブ【拡張機能・工場オプション】が機能しなくなったときも同様です)

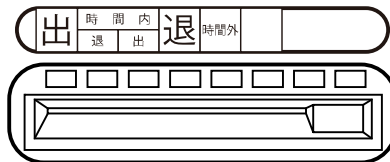
停電時

フルパワーリザーブが機能しているとき



指定された出退ボタンが点滅します

フルパワーリザーブが機能していないとき



出退ボタンが消灯します

積算/フレックス印字について<EX9800>

■積算/フレックス印字の条件

積算/フレックス印字を行う場合には必ず次の設定を行ってください。

- ・印字フォーマット→35 ページ（積算印字の分印字表現を設定します）
- ・積算/フレックス印字フォーマット
→39 ページ（積算単位時間数および始業/終業打刻欄を設定します）
- ・自動欄移動→43 ページ（打刻する欄を設定します）
- ・週間プログラム(積算/フレックス)
→48 ページ（始業/終業時刻、フレックスの時刻を設定します）

ご注意

『自動欄移動』で設定した欄と、『積算/フレックス印字フォーマット』で設定した始業または終業打刻欄が同一欄の場合のみ、積算/フレックス印字が通常打刻欄の右の欄に印字されます。

下記勤務スケジュールの場合は、プログラムを次のように設定します。

5:00	8:00	8:30	12:00	17:30	18:00	5:00
早出	通常出勤	遅刻	早退	通常退勤	残業	
印字段 切替時刻	始業時刻		終業時刻		印字段 切替時刻	

積算/フレックス印字フォーマットで始業打刻欄を“2 欄目”、終業打刻欄を“5 欄目”とした場合、『自動欄移動』は下記のように設定してください。

- ・5:00～8:00 が早出積算印字の対象となる場合、『自動欄移動』は 5:00～8:00 を“2 欄目”で設定してください。
- ・8:01～8:30 が通常出勤（積算印字はしない）となる場合、『自動欄移動』は 8:01～8:30 を“1 欄目”で設定してください。
- ・8:31～12:00 が遅刻積算印字の対象となる場合、『自動欄移動』は 8:31～12:00 を“2 欄目”で設定してください。
- ・12:01～17:29 が早退積算印字の対象となる場合、『自動欄移動』は 12:01～17:29 を“5 欄目”で設定してください。
- ・17:30～17:59 が通常退勤（積算印字はしない）となる場合、『自動欄移動』は 17:30～17:59 を“4 欄目”で設定してください。
- ・18:00～4:59 が残業積算印字の対象となる場合、『自動欄移動』は 18:00～4:59 を“5 欄目”で設定してください。

※出退ボタンを押して欄を選択した場合や、印字フォーマットで二重打刻防止機能を有効とした場合は、遅刻・早退の積算印字はできません。

※積算時間内に休憩開始時刻と休憩終了時刻が設定されている場合、その休憩時間帯を引いた時間数が印字されます。

※早出および残業積算は端数時間が切捨てとなり、遅刻および早退積算は端数時間が切上げとなります。（積算単位時間数を設定した場合）

残業積算印字のみかた<EX9800>

設定例

積算/フレックス印字フォーマットの始業打刻欄を2欄目、終業打刻欄を5欄目に設定します。
また、自動欄移動は次のように設定します。

	5:00	8:30	9:00	12:00	18:00	18:30	5:00
	印字段 切替時刻						印字段 切替時刻
印字内容	早出		遅刻	早退		残業	
印字	ハヤ		チコ	ソタ		ザン	
印字欄 移動	2欄目 時間内 “退”	1欄目 定時 “出”	2欄目 時間内 “退”	5欄目 “時間外”	4欄目 定時 “退”	5欄目 “時間外”	

積算印字のサンプル

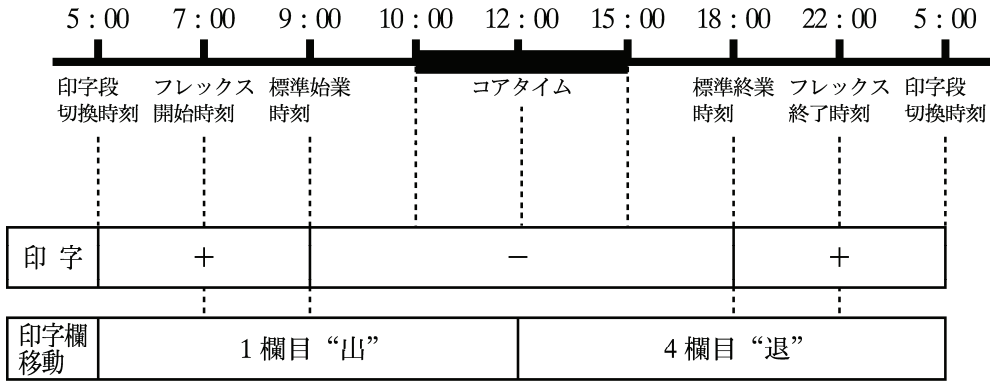
日付	定時	時間内		定時	時間外	小計
	出	退	出	退		
1	8:45			18:10		
2	7:35	1:00		18:10		
3	8:57				19:33	1:30
4	9:08	10:30		18:08		
5	8:38				16:21	2:00
6						
7	8:41				20:39	2:50
8	8:49				21:18	3:0
9	8:40			18:18		
10		9:12	10:12		19:24	1:24
11	7:00			21:12		
12						
13						
14						
15						

出退ボタンで欄を選択した場合、積算印字しません。
網掛けは赤印字となります。

フレックス印字のみかた<EX9800>

設定例

積算/フレックス印字フォーマットの始業打刻欄を1欄目、終業打刻欄を4欄目に設定します。
また、自動欄移動は次のように設定します。



フレックス印字のサンプル

日付	定時		時間内		定時		時間外	小計
	出	退	出	退	退	時間外		
1	9:07	- 0:10			20:12	+ 2:10		
2	8:26	+ 0:30			19:49	+ 1:45		
3	9:09	- 0:25			19:21	+ 1:25		
4	9:17	- 0:5			16:25	- 1:7		
5	8:43	+ 0:17			19:18	+ 1:18		
6								
7	10:05	- 1:05			23:05	+ 4:00		
8	6:05	+ 2:00			14:37	- 3:23		
9	9:37				18:48			
10								
11								
12								
13								
14								
15								

標準始業時刻 (9:00) に対する時間差 (60進、5分単位)

フレックス開始時刻 以前は計算しません

標準終業時刻 (18:00) に対する時間差 (60進、5分単位)

標準時間差 (60進、15分単位)

標準時間差 (100進、15分単位)

標準時間差 (10進、15分単位)

標準時間差 (60進、5分単位)

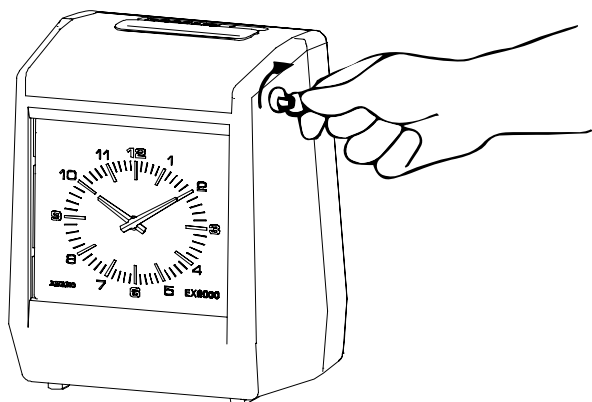
フレックス終了時刻以降は計算しません

出退ボタンで欄を選択した場合、フレックス印字しません。
網掛けは赤印字となります。

設定のしかた

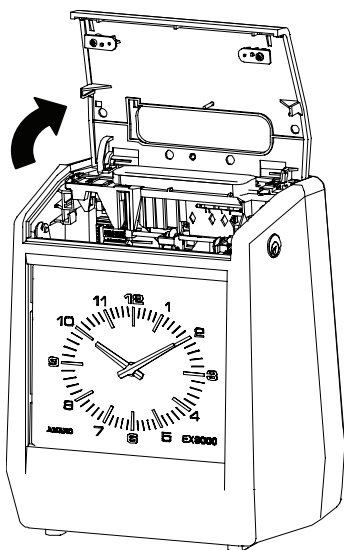
上ぶたの開けかた

- 1 カギを矢印(時計回り)の方向に回します



カギを矢印(時計回り)の方向に回すと、上ぶたのロックが外れ、上ぶたの手前が浮き上がります。

- 2 上ぶたを開けます



浮き上がった上ぶたの手前部分を持ち上げます。

上ぶたの閉めかた

上ぶたを閉め、付属のカギを抜き取ります。

年月日の合わせかた

例:2018年11月1日を、2018年11月3日に変更する

1 上ぶたを開けます (25 ページ参照)

2 ダイヤルを回して設定見出しを合わせ、年/月/日 ボタンを押します



3 “西暦年”を合わせます



“西暦年”(下2桁)を確認し、 ボタンで“年”を合わせます。押し続けると早送りします。

変更がなければ、そのまま ボタンを押します。

ボタンを押すと“月”が点滅します。

4 “月”を合わせます



“月”を確認し、 ボタンで“月”を合わせます。

押し続けると早送りします。

変更がなければ、そのまま ボタンを押します。

ボタンを押すと“日”が点滅します。

5 “日”を合わせます



“日”を確認し、 ボタンで“03”に合わせます。

押し続けると早送りします。

変更がなければ、そのまま ボタンを押します。

ボタンを押すと“日”の設定が確定します。

6 上ぶたを閉めます (25 ページ参照)

※年は、2090年まで設定できます。

時刻の合わせかた

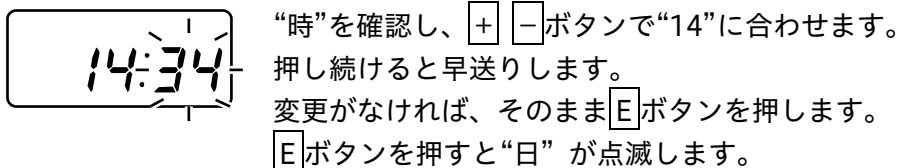
例:14:34 を 14:32 に変更する

1 上ぶたを開けます (25 ページ参照)

2 ダイアルを回して設定見出しを合わせ、**時分**ボタンを押します

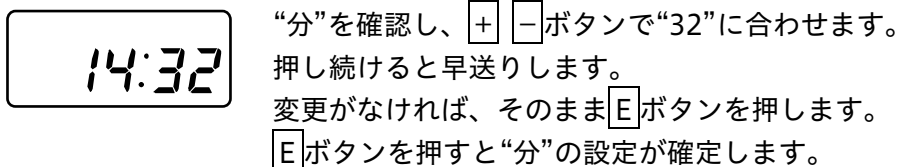


3 “時”を合わせます



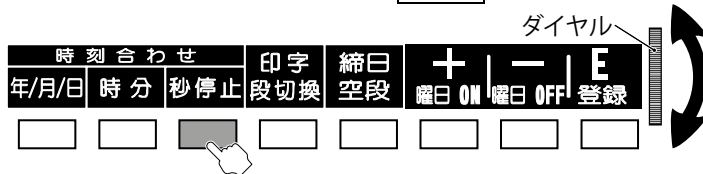
※“時”は 24 時制で設定します。

4 “分”を合わせます



5 上ぶたを閉めます (25 ページ参照)

時計が若干進んでいる場合は、**秒停止**ボタンを押してください。



※ボタンを押している間は時計の歩進が停止し、離れた瞬間に 0 秒スタートします。

印字段切換時刻の変更のしかた

印字段切換時刻とはタイムレコーダー上の1日の開始時刻です。設定した時刻を境に印字段が切り換わります。

初期値は午前3:00に切り換わるように設定されています。午前3:00から翌日の午前2:59までが同じ印字段に印字されます。

午前3:00を越えると印字段が切り換わります。この時刻を越える勤務がある場合は、出勤と退勤が異なった段に印字されます。

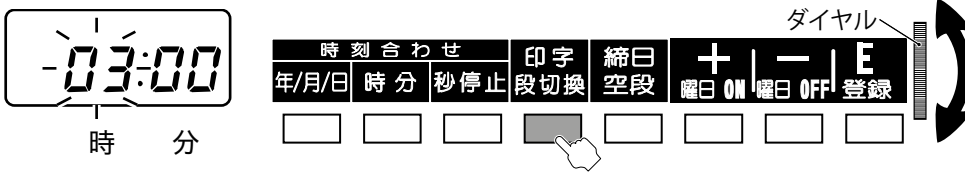
日付	定時			時間内			定時			時間外	小計
	出	退	出	退	退	退	退	退			
1	月22:09										
2							× 5:10				

午前3:00を越える勤務が主な場合、印字段切換時刻を他の時刻(1日の中で勤務されている方がいない時刻)に変更します。

例:印字段切換時刻を午前3:00(初期値)から午前5:00に変更する

1 上ぶたを開けます (25 ページ参照)

2 ダイヤルを回して設定見出しを合わせ、印字段切換ボタンを押します



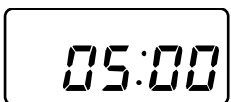
3 “時”を合わせます



“時”を確認し、**+** **-** ボタンで“05”に合わせます。押し続けると早送りします。変更がなければ、そのまま**E**ボタンを押します。**E**ボタンを押すと“分”が点滅します。

※“時”は24時制で設定します。

4 “分”を合わせます



“分”を確認し、**+** **-** ボタンで“分”を合わせます。押し続けると早送りします。変更がなければ、そのまま**E**ボタンを押します。**E**ボタンを押すと“分”の設定が確定します。

5 上ぶたを閉めます (25 ページ参照)

印字段切換時刻を午前6:00に設定すると、翌日の午前5:59までは同じ印字段になります。

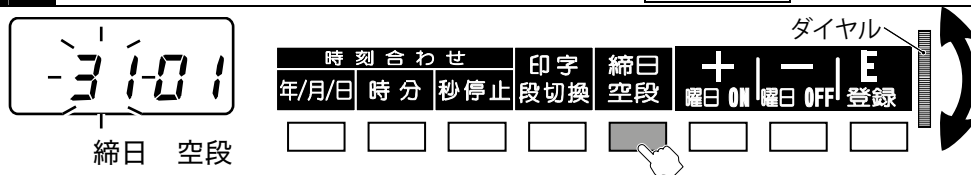
日付	定時			時間内			定時			時間外	小計
	出	退	出	退	退	退	退	退			
1	月22:09						× 5:10				
2											

締日/空段の設定

例:月末締め(初期値)から 20 日締めに変更する

1 上ぶたを開けます (25 ページ参照)

2 ダイヤルを回して設定見出しを合わせ、**締日 空段**ボタンを押します



3 “締日”を合わせます



“締日”を確認し、**+** **-** ボタンで“20”に合わせます。
押し続けると早送りします。
変更がなければ、そのまま**E**ボタンを押します。
Eボタンを押すと“空段”が点滅します。

4 “空段”を合わせます



“空段”を確認し、**+** **-** ボタンで“17”に合わせます。
押し続けると早送りします。
変更がなければ、そのまま**E**ボタンを押します。
Eボタンを押すと“空段”の設定が確定します。

※締日を 20 日に設定すると、空段は自動的に 17 と設定されます。

5 上ぶたを閉めます (25 ページ参照)

※ A カード (月末/15 日締め) ご利用の場合 (月末/15 日締め)

15 日締めであっても締日は“31”で設定してください。

締日を“31”と設定すると、空段は自動的に“01”に設定されます。

※ B カード (20 日/5 日締め) ご利用の場合

5 日締めであっても締日は“20”で設定してください。

締日を“20”と設定すると、空段は自動的に“17”に設定されます。

※ C カード (25 日/10 日締め) ご利用の場合

10 日締めであっても締日は“20”で設定してください。

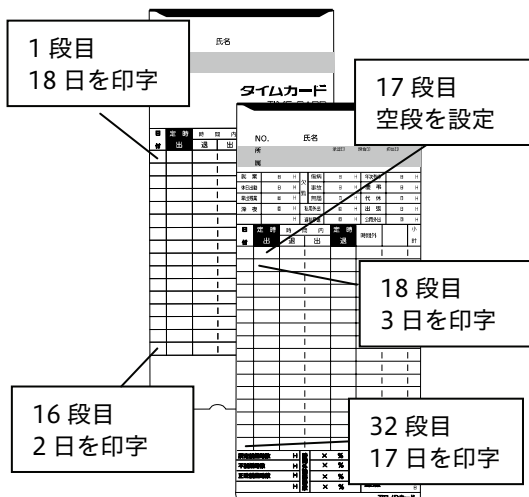
締日を“25”と設定すると、空段は自動的に“17”に設定されます。

アマノDカードを使用する場合

Dカードを使用する場合には「締日」の設定に加えて「空段」の設定が必要になります。タイムカード片面にそれぞれ16段、合計32段の印字段に対して、使用しない段を「空段」と呼びます。アマノ標準A、B、Cカードで対応できない締日として17日締めを例に説明いたします。

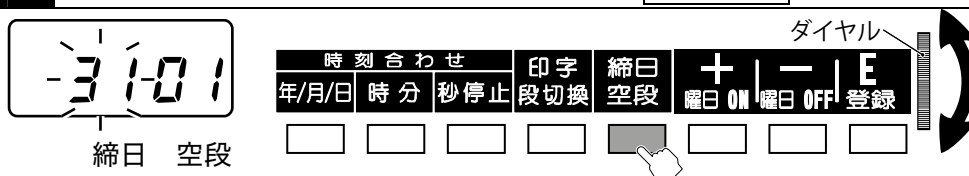
- ・締日…17日
- ・空段…17段目

17日締めですので、タイムカードのおもて面(青色の印刷面)の1段目に18日、16段目に2日を印字、うら面(赤色の印刷面)の最上段(17段目)を「空段」に設定し、18段目に3日、32段目に31日を印字します。

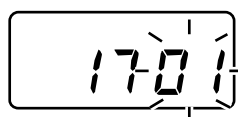


1 上ぶたを開けます (25 ページ参照)

2 ダイヤルを回して設定見出しを合わせ、**締日 空段**ボタンを押します

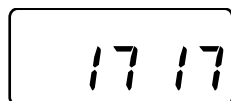


3 “締日”を合わせます



“締日”を確認し、**+** **-** ボタンで“17”に合わせます。
押し続けると早送りします。
変更がなければ、そのまま**E**ボタンを押します。
Eボタンを押すと“空段”が点滅します。

4 “空段”を合わせます



“空段”を確認し、**+** **-** ボタンで“17”に合わせます。
押し続けると早送りします。
変更がなければ、そのまま**E**ボタンを押します。
Eボタンを押すと“空段”の設定が確定します。

5 上ぶたを閉めます (25 ページ参照)

※Dカードには日付印刷がありません、**日付印字**の設定を推奨します。(36 ページ参照)

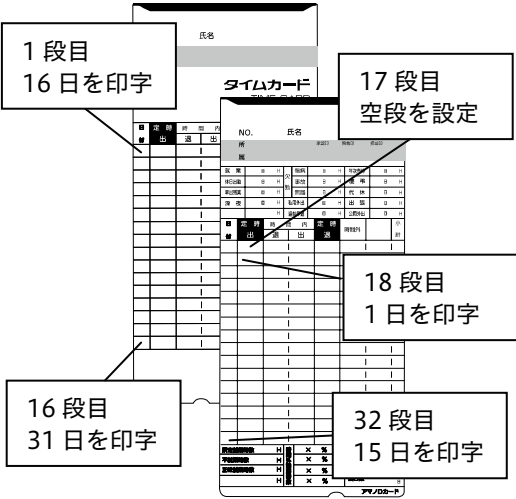
15日締めをDカードを使用しておもて面から使用する場合

15日締めの場合は、通常Aカードを使用します。

Aカードはおもて面(青色の印刷面)を1日から、うら面(赤色の印刷面)を16日から使用します。設定により15日締めでもDカードを使用しておもて面(青色の印刷面)から使用することができます。

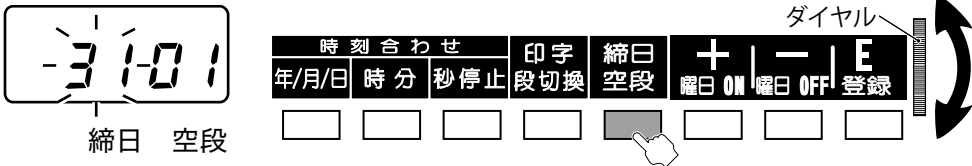
・ 締日…15日
 ・ 空段…17段目

15日締めですので、タイムカードのおもて面(青色の印刷面)の1段目に16日、16段目に31日を印字、うら面(赤色の印刷面)の最上段(17段目)を「空段」に設定し、18段目に1日、32段目に15日を印字します。

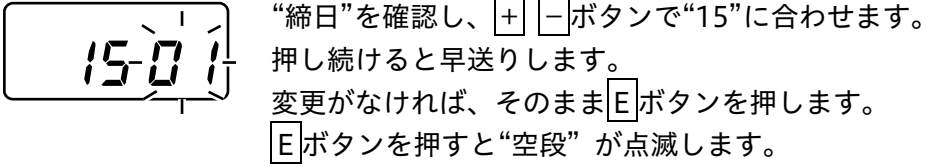


1 上ぶたを開けます (25 ページ参照)

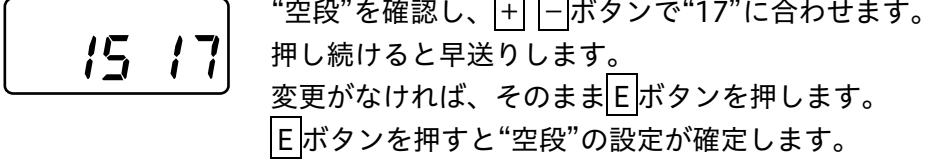
2 ダイヤルを回して設定見出しを合わせ、**締日 空段**ボタンを押します



3 “締日”を合わせます



4 “空段”を合わせます



5 上ぶたを閉めます (25 ページ参照)

※Dカードには日付印刷がありません、**日付印字**の設定を推奨します。(36 ページ参照)

時報長さの設定<EX9300/9800>

例:時報の長さを 10 秒間に変更する

1 上ぶたを開けます (25 ページ参照)

2 ダイヤルを回して設定見出しを合わせ、**時報長さ** ボタンを押します



3 “秒数”を合わせます



“秒数”を確認し、**+** **-** ボタンで“10”に合わせます。
押し続けると早送りします。
変更がなければ、そのまま**E** ボタンを押します。
E ボタンを押すと“秒数”の設定が確定されます。

※メロディの吹鳴時間数を変更することはできません。

※時報 2 回路出力 (拡張機能:工場オプション) の場合、時報長さの設定は共通です。

4 上ぶたを閉めます (25 ページ参照)

※00 秒と設定すると、週間プログラムで時報の設定がされていても時報は鳴りません。

印字フォーマットの設定

印字欄手動選択の設定<EX9800>

自動欄移動で設定された欄以外を出退ボタンで選択して打刻できるか設定します。

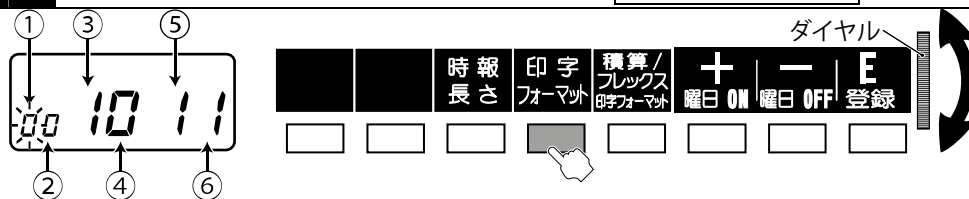
※自動欄移動の設定がない状態で印字欄手動選択を「手動選択なし」と設定すると打刻できなくなりますのでご注意ください。

印字欄手動選択 0：手動選択あり、1：手動選択なし

例:印字欄手動選択を「手動選択なし」に設定する

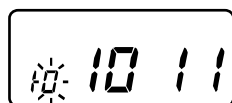
1 上ぶたを開けます (25 ページ参照)

2 ダイヤルを回して設定見出しを合わせ、**印字フォーマット**ボタンを押します



①印字欄手動選択、②二重打刻防止、③積算/フレックス分印字表現、④曜日印字、⑤時印字表現、⑥分印字表現

3 “印字欄手動選択”を設定します



0:手動選択あり

1:手動選択なし

“印字欄手動選択”(①の桁が点滅) の設定内容を確認し、**+** **-** ボタンで“1”(手動選択なし)に合わせます。

変更がなければ、そのまま**E**ボタンを押します。

Eボタンを押すと“印字欄手動選択”の設定が確定し、次の項目“二重打刻防止”が点滅します。

4 上ぶたを閉めます (25 ページ参照)

二重打刻防止機能の設定<EX9800>

二重打刻防止のため、始業時刻から終業時刻は印字欄を選択しなければカードを挿入しても打刻させない機能です。

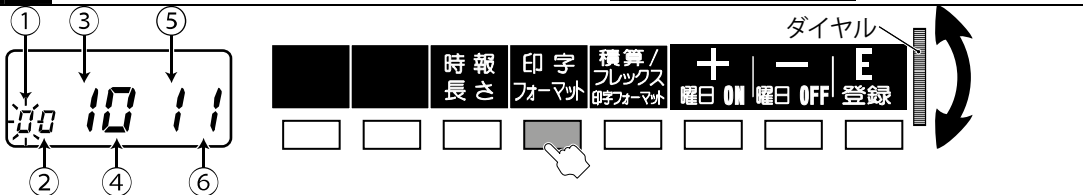
※積算フレックスの設定にて始業・終業時刻の設定がされているときのみ二重打刻防止機能が有効となります。

二重打刻防止機能 0：無効、1：有効

例:二重打刻防止機能を「有効」に設定する

1 上ぶたを開けます (25 ページ参照)

2 ダイヤルを回して設定見出しを合わせ、**印字フォーマット**ボタンを押します



①印字欄手動選択、②二重打刻防止、③積算/フレックス分印字表現、④曜日印字、⑤時印字表現、⑥分印字表現

3 “二重打刻防止機能”の項目を選択します



E ボタンを1回押します。

“二重打刻防止機能”(②の桁) が点滅します。

4 “二重打刻防止機能”を設定します



0:無効

1:有効

“二重打刻防止機能”(②の桁が点滅) の設定内容を確認し、**+** **-** ボタンで“1”(有効)に合わせます。

変更がなければ、そのまま**E**ボタンを押します。

Eボタンを押すと“印字欄手動選択”の設定が確定し、次の項目“積算・フレックス分印字表現”が点滅します。

5 上ぶたを閉めます (25 ページ参照)

積算/フレックス分印字表現の設定<EX9800>

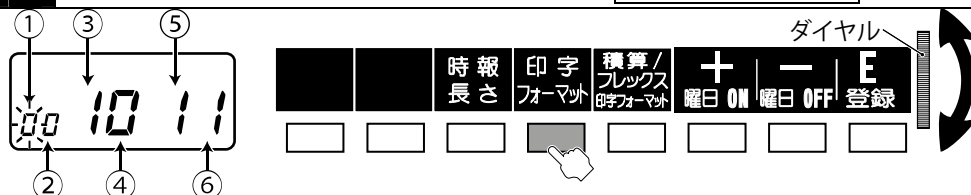
積算/フレックス機能で計算された時間数の印字を 60 進法/100 進法 A/100 進法 B/10 進法から選択する機能です。

積算/フレックス分印字表現 1：60 進法、2：100 進法 A、3：100 進法 B、4：10 進法

例:積算/フレックス分印字表現を「100 進法 A」に設定する

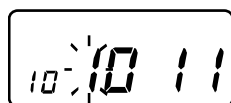
1 上ぶたを開けます (25 ページ参照)

2 ダイヤルを回して設定見出しを合わせ、**印字フォーマット**ボタンを押します



①印字欄手動選択、②二重打刻防止、③積算/フレックス分印字表現、④曜日印字、⑤時印字表現、⑥分印字表現

3 “積算/フレックス分印字表現”の項目を選択します



E ボタンを 2 回押します。

“積算/フレックス分印字表現”(③の桁) が点滅します。

4 “積算/フレックス分印字表現”を設定します



- 1：60 進法
- 2：100 進法 A
- 3：100 進法 B
- 4：10 進法

“積算/フレックス分印字表現”(③の桁が点滅) の設定内容を確認し、

+ **-** ボタンで“2”(100 進法 A)に合わせます。

変更がなければ、そのまま **E** ボタンを押します。

E ボタンを押すと“積算/フレックス分印字表現” の設定が確定し、次の項目“曜日印字”が点滅します。

5 上ぶたを閉めます (25 ページ参照)

分印字表現(60 進法、100 進法 A、100 進法 B、10 進法)

60進法	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
100進法A	0	2	3	5	7	8	10	12	13	15	17	18	20	22	23	25	27	28	30	32
100進法B	0	0	0	5	5	5	10	10	10	15	15	15	20	20	20	25	25	25	30	30
10進法	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	3	3

60進法	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39
100進法A	33	35	37	38	40	42	43	45	47	48	50	52	53	55	57	58	60	62	63	65
100進法B	30	35	35	35	40	40	40	45	45	45	50	50	50	55	55	55	60	60	60	65
10進法	3	3	3	3	4	4	4	4	4	4	5	5	5	5	5	5	6	6	6	6

60進法	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59
100進法A	67	68	70	72	73	75	77	78	80	82	83	85	87	88	90	92	93	95	97	98
100進法B	65	65	70	70	70	75	75	75	80	80	80	85	85	85	90	90	90	95	95	95
10進法	6	6	7	7	7	7	7	7	8	8	8	8	8	8	9	9	9	9	9	9

曜日の印字を変更したい場合

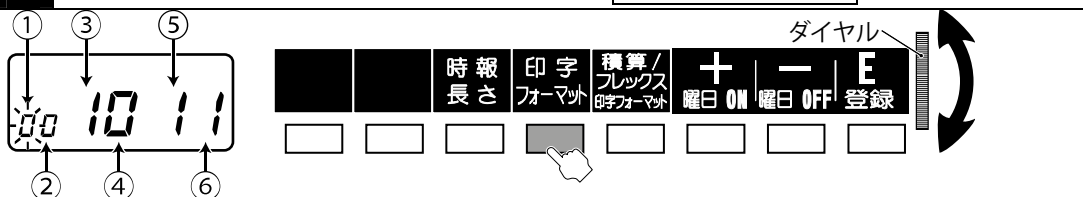
タイムカードに印字する曜日の種類を選択します。

曜日印字 0：日付、1：英語、2：西語、3：仏語、4：独語、5：伊語、6：漢字、
7：ダイナンバー、8：曜日印字なし

例:曜日印字を「漢字」に設定する

1 上ぶたを開けます (25 ページ参照)

2 ダイヤルを回して設定見出しを合わせ、**印字フォーマット** ボタンを押します



①印字欄手動選択、②二重打刻防止、③積算/フレックス分印字表現、④曜日印字、⑤時印字表現、⑥分印字表現

3 “曜日印字”の項目を選択します



E ボタンを3回押します。

“曜日印字”(④の桁) が点滅します。

※EX9000、EX9100、EX9300 では、この操作の必要はありません。

4 “曜日印字”を設定します



“曜日印字”(④の桁が点滅) の設定内容を確認し、**+** **-** ボタンで
“6”(漢字)に合わせます。

変更がなければ、そのまま**E** ボタンを押します。

E ボタンを押すと“曜日印字” の設定が確定し、次の項目“時印字表
現” が点滅します。

- 0：日付
- 1：英語
- 2：西語
- 3：仏語
- 4：独語
- 5：伊語
- 6：漢字
- 7：ダイナンバー
- 8：曜日印字なし

例:

☐ 8:52(0:日付)、☑ 8:52(1:英語)、* 8:52(6:漢字)

5 上ぶたを閉めます (25 ページ参照)

時印字表現の設定

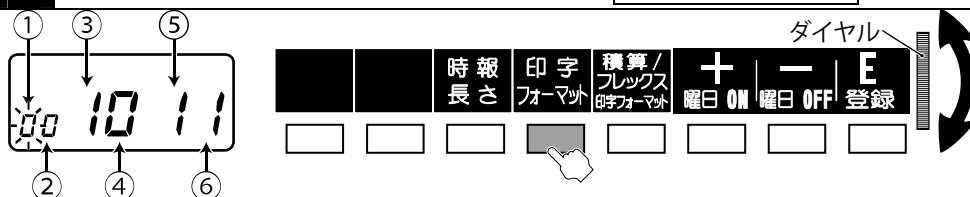
タイムカードに印字する時刻の“時”の印字表現を選択します。

時印字 1:24 時制(10の位の0印字なし → 7:00 など)
2:12 時制(午後の打刻には「分」にアンダーラインが付きます)
3:24 時制(10の位の0印字あり → 07:00 など)

例:時印字表現を「12 時制」に設定する

1 上ぶたを開けます (25 ページ参照)

2 ダイヤルを回して設定見出しを合わせ、**印字フォーマット**ボタンを押します



①印字欄手動選択、②二重打刻防止、③積算/フレックス分印字表現、④曜日印字、⑤時印字表現、⑥分印字表現

3 “時印字表現”の項目を選択します

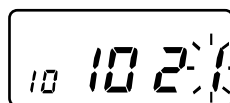


E ボタンを 4 回押します。

“時印字表現”(⑤の桁) が点滅します。

※EX9000、EX9100、EX9300 では、**E** ボタンを 1 回押します。

4 “時印字表現”を設定します



“時印字表現”(⑤の桁が点滅) の設定内容を確認し、**+** **-** ボタンで “2”(12 時制)に合わせます。

変更がなければ、そのまま**E** ボタンを押します。

1:24 時制(0印字なし)
2:12 時制
3:24 時制(0印字あり)

E ボタンを押すと“印字フォーマット”の設定が確定し、次の項目 “分印字表現” が点滅します。

12 時制設定時、午後の打刻には「分」にアンダーラインが付きます。

3:11 (例：午後 3:11)

5 上ぶたを閉めます (25 ページ参照)

分印字表現の設定

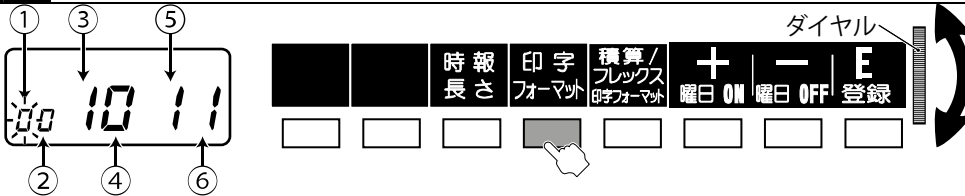
タイムカードに印字する時刻の“分”の印字表現を選択します。

分印字表現 1：60 進法、2：100 進法 A、3：100 進法 B、4：10 進法

例:分印字単位を「100 進法 A」に設定する

1 上ぶたを開けます (25 ページ参照)

2 ダイヤルを回して設定見出しを合わせ、**印字フォーマット** ボタンを押します



①印字欄自動選択、②二重打刻防止、③積算/フレックス分印字表現、④曜日印字、⑤時印字表現、⑥分印字表現

3 “分印字表現”の項目を選択します



E ボタンを 5 回押します。

“分印字表現”(⑥の桁) が点滅します。

※EX9000、EX9100、EX9300 では、**E** ボタンを 2 回押します。

4 “分印字表現”を設定します。



“分印字表現”(⑥の桁が点滅) の設定内容を確認し、**+** **-** ボタンで “2”(100 進法 A) に合わせます。

変更がなければ、そのまま **E** ボタンを押します。

E ボタンを押すと“分印字表現”の設定が確定します。

- 1：60 進法
- 2：100 進法 A
- 3：100 進法 B
- 4：10 進法

5 上ぶたを閉めます (25 ページ参照)

分印字表現 (60 進法、100 進法 A、100 進法 B、10 進法)

60進法	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
100進法A	0	2	3	5	7	8	10	12	13	15	17	18	20	22	23	25	27	28	30	32
100進法B	0	0	0	5	5	5	10	10	10	15	15	15	20	20	20	25	25	25	30	30
10進法	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	3	3

60進法	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39
100進法A	33	35	37	38	40	42	43	45	47	48	50	52	53	55	57	58	60	62	63	65
100進法B	30	35	35	35	40	40	40	45	45	45	50	50	50	55	55	55	60	60	60	65
10進法	3	3	3	3	4	4	4	4	4	4	5	5	5	5	5	5	6	6	6	6

60進法	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59
100進法A	67	68	70	72	73	75	77	78	80	82	83	85	87	88	90	92	93	95	97	98
100進法B	65	65	70	70	70	75	75	75	80	80	80	85	85	85	90	90	90	95	95	95
10進法	6	6	7	7	7	7	7	7	8	8	8	8	8	8	9	9	9	9	9	9

積算/フレックス印字フォーマット設定<EX9800>

例:30分単位、始業積算打刻欄を1欄目、終業積算打刻欄を4欄目に設定する

積算フレックス	1:積算単位時間数	00~60分
印字フォーマット	2:積算/フレックス1始業打刻欄	0~7欄目
	3:積算/フレックス1終業打刻欄	0~7欄目
	4:積算/フレックス2始業打刻欄	0~7欄目
	5:積算/フレックス2終業打刻欄	0~7欄目

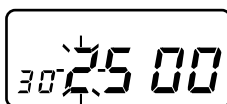
1 上ぶたを開けます (25 ページ参照)

2 ダイヤルを回して設定見出しを合わせ、積算/フレックス印字フォーマットボタンを押します



- ①積算単位時間数、②積算/フレックス1始業打刻欄、③積算/フレックス1終業打刻欄
- ④積算/フレックス2始業打刻欄、⑤積算/フレックス2終業打刻欄

3 “積算単位時間数”を設定します

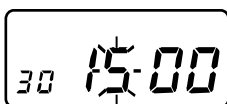


“積算単位時間数”(①の2桁が点滅)の設定内容を確認し、 ボタンで“30”(30分単位)に合わせます。
変更がなければ、そのまま ボタンを押します。
 ボタンを押すと“積算単位時間数”の設定が確定し、次の項目“積算/フレックス1・始業打刻欄”が点滅します。

“積算単位時間数”の設定は00~60分の範囲となります。

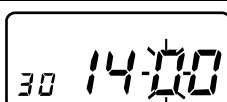
また、積算時間の端数は早出・残業は切捨てとなり、遅刻・早退は切上げとなります。

4 “積算/フレックス1・始業打刻欄”を設定します



“(積算/フレックス1)始業打刻欄”(②の桁が点滅)の設定内容を確認し、 ボタンで“1”(1欄目)に合わせます。
変更がなければ、そのまま ボタンを押します。
 ボタンを押すと“(積算/フレックス1)始業打刻欄”の設定が確定し、次の項目“(積算/フレックス1)終業打刻欄”が点滅します。

5 “積算/フレックス1・終業打刻欄”を設定します



“(積算/フレックス1)終業打刻欄”(③の桁が点滅)の設定内容を確認し、 ボタンで“4”(4欄目)に合わせます。
変更がなければ、そのまま ボタンを押します。
 ボタンを押すと“(積算/フレックス1)終業打刻欄”の設定が確定し、次の項目“(積算/フレックス2)始業打刻欄”が点滅します。

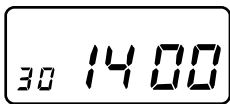
所定内時間が2つある場合は、同様に残り2つの設定をしてください。
残業積算/フレックス印字で所定内時間が1つの場合には“0”、“0”としてください。

6 “積算/フレックス2・始業打刻欄”を設定します



“フレックス2・始業打刻欄”(④の桁が点滅)の設定内容を確認し、
+ - ボタンで“0”に合わせます。
変更がなければ、そのままEボタンを押します。
Eボタンを押すと“(積算/フレックス2)始業打刻欄”の設定が確定し、次の項目“(積算/フレックス2)終業打刻欄”が点滅します。

7 “積算/フレックス2・終業打刻欄”を設定します



“(積算/フレックス2)終業打刻欄”(⑤の桁が点滅)の設定内容を確認し、+ - ボタンで“0”に合わせます。
変更がなければ、そのままEボタンを押します。
Eボタンを押すと“(積算/フレックス2)終業打刻欄”の設定が確定し、登録完了です。

8 上ぶたを閉めます (25 ページ参照)

週間プログラムの設定

二色印字・時報・メロディの設定<EX9100,EX9300,EX9800>

モデルごとに以下の設定ができます。

機能	EX9000	EX9100	EX9300	EX9800
二色印字		●	●	●
時報・メロディ			●	●

例:月～金 8:31 から赤印字にし、17:00 から黒印字に戻す

1 上ぶたを開けます (25 ページ参照)

2 ダイヤルを回転させ、設定見出しを合わせます

この画面で **+** **-** ボタンを押すと、プログラムNo.を変更できます。(P-01～P-50 の範囲)

3 曜日/時刻ボタンを押します

4 対象となる“曜日”を指定します

点滅している曜日に対して、指定する場合は **曜日 ON**、指定しない場合は **曜日 OFF** ボタンを押します。

1月、**2**火、**3**水、**4**木、**5**金、**6**土、**7**日

5 “時刻”の指定に移動します

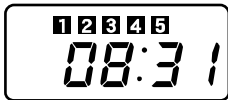
E ボタンを押すと“曜日”の設定が確定し、次の項目“時”が点滅します。

6 “時”を合わせます

“時”を確認し、**+** **-** ボタンで“08”に合わせます。
押し続けると早送りします。
変更がなければ、そのまま **E** ボタンを押します。
E ボタンを押すと“分”が点滅します。

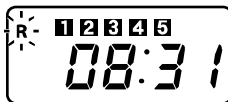
※“時”は 24 時制で設定します

7 “分”を合わせます



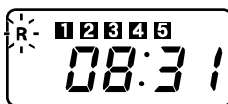
“分”を確認し、**+** **-** ボタンで“31”に合わせます。
押し続けると早送りします。
変更がなければ、そのまま**E** ボタンを押します。
E ボタンを押すと“分”の設定が確定します。

8 二色/時報/メロディを指定します



二色 ボタンで“印字色”の選択に移ります。

9 “印字色”を指定します

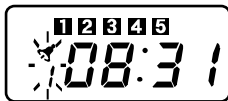


+ **-** ボタンで**R**(Red:赤)、**B**(Black:黒)を切り換えます。
E ボタンを押すと“印字色”の設定が確定し、手順**8**に戻ります。

この画面で**時報** **メロディ**のボタンを操作すると、それぞれの選択に移ります。

+ **-** ボタンで“回路”(📻:時報)、“曲”(🎵:メロディ)を選択します。

【時報】



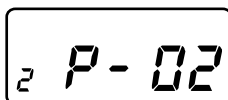
- 0:鳴らさない
 - 1:回路 1 を鳴らす
 - 2:回路 2 を鳴らす
 - 3:回路 1・回路 2 とも鳴らす
(回路 2 は工場オプション・拡張機能です)
- (時報長さの設定は 32 ページ参照)

【メロディ】



- | | |
|-------------|---------|
| スイッチー下側 | スイッチー上側 |
| 0:鳴らさない | 0:鳴らさない |
| 1:グリーンスリーブス | 1:メヌエット |
| 2:峠の我が家 | 2:四季「春」 |
| 3:ウェストミンスター | 3:蛍の光 |
| 4:二つのメヌエット | 4:新世界より |
- (スイッチの説明は 54 ページ参照)

10 設定内容を確定させます



設定に間違いがなければもう一度**E** ボタンを押し、設定を確定させます。登録が完了すると、次のプログラムNo.を表示します。

11 上ぶたを閉めます (25 ページ参照)

続けて黒印字の開始時刻を設定します。

赤印字・黒印字は**必ずセット**で設定してください。

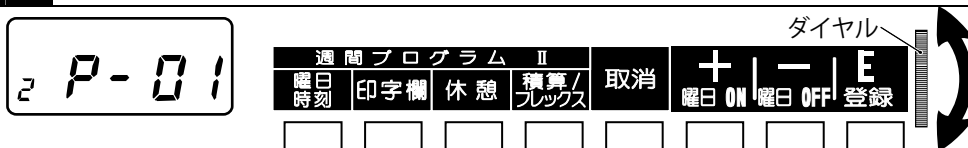
引き続き設定を行う場合は曜日/時刻ボタンを押して、**3**~**10**の操作を行います。
すべての設定が完了しましたら、上ぶたを閉めます。

自動欄移動の設定<EX9800>

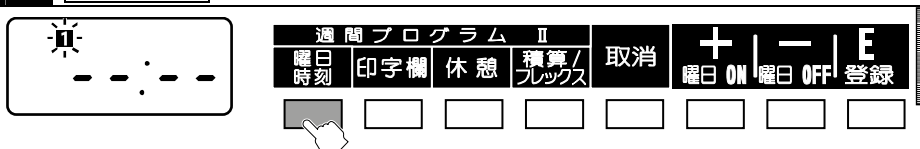
例:月～金 18:00 に4欄に移動する

1 上ぶたを開けます (25 ページ参照)

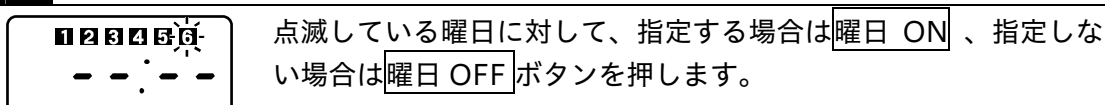
2 ダイヤルを回転させ、設定見出しを合わせます



3 曜日/時刻 ボタンを押します

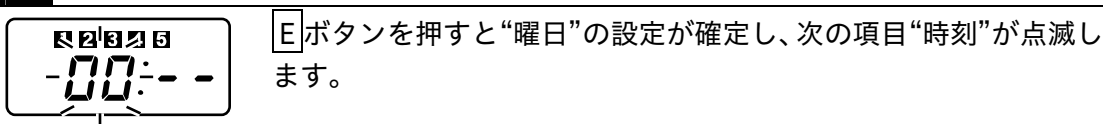


4 対象となる“曜日”を指定します

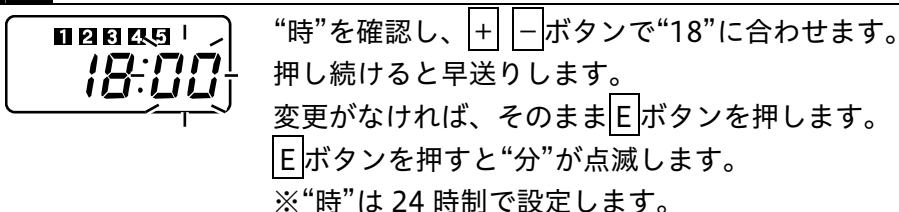


1月、2火、3水、4木、5金、6土、7日

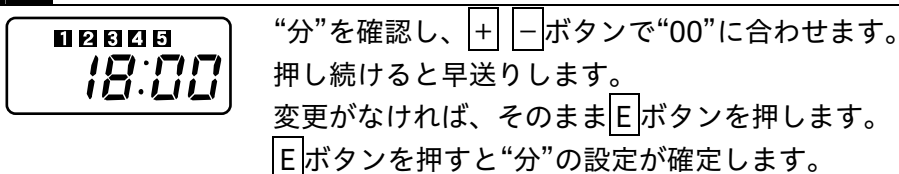
5 “時刻”の指定に移動します



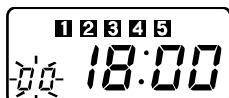
6 “時”を合わせます



7 “分”を合わせます



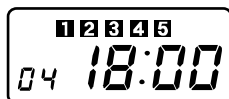
8 印字欄ボタンを押します



印字欄ボタンを押すと“印字欄”が点滅します。

00：自動欄移動しない、01～08：01～08 欄に移動する

9 “印字欄”を指定します



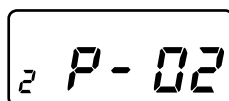
“印字欄”を確認し、 ボタンで“04”に合わせます。

押し続けると早送りします。

変更がなければ、そのまま ボタンを押します。

ボタンを押すと“印字欄”の設定が確定します。

10 設定内容を確定させます



設定に間違いがなければもう一度 ボタンを押し、設定を確定させます。登録が完了すると、次のプログラムNo.を表示します。

11 上ぶたを閉めます (25 ページ参照)

引き続き設定を行う場合は曜日/時刻ボタンを押して、**3**～**10**の操作を行います。
すべての設定が完了しましたら、上ぶたを閉めます。

積算/フレックスにおける休憩時間の設定<EX9800>

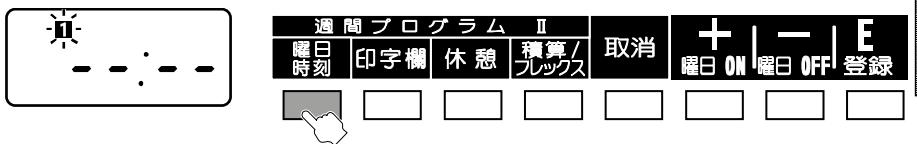
例:月～金 12:00～13:00 を休憩として設定する

1 上ぶたを開けます (25 ページ参照)

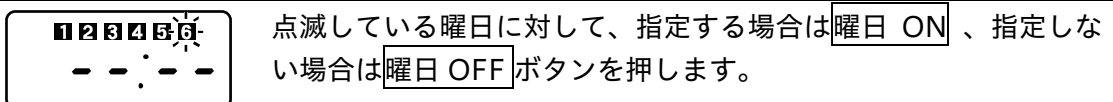
2 ダイヤルを回転させ、設定見出しを合わせます



3 曜日/時刻 ボタンを押します

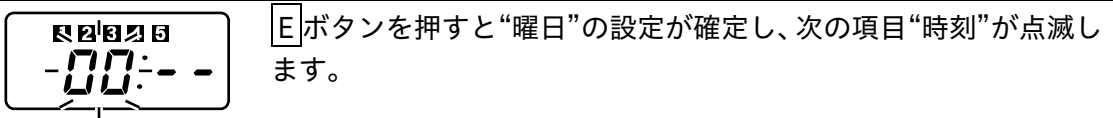


4 対象となる“曜日”を指定します

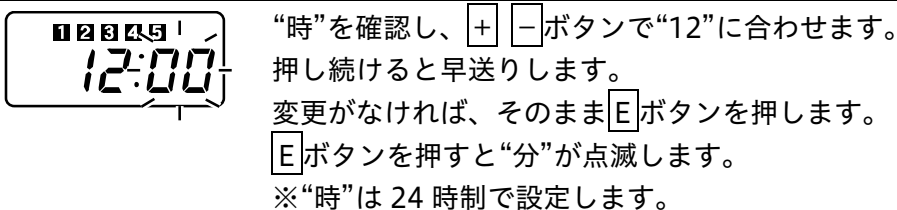


1月、2火、3水、4木、5金、6土、7日

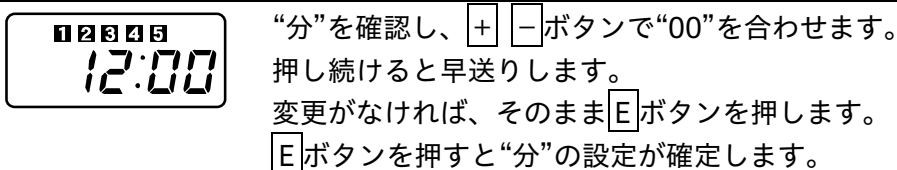
5 “時刻”の指定に移動します



6 “時”を合わせます



7 “分”を合わせます

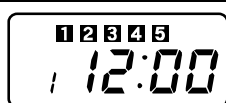


8 休憩ボタンを押します



休憩ボタンを押すと“休憩開始”が点滅します。

9 休憩開始時刻を設定します



“休憩開始”を確認し、**+** **-** ボタンで“1”に合わせます。

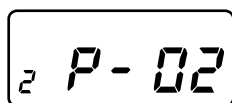
押し続けると早送りします。

変更がなければ、そのまま**E**ボタンを押します。

Eボタンを押すと“休憩”の設定が確定します。

- 1:休憩開始
- 2:休憩終了

10 設定内容を確定させます



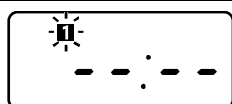
設定に間違いがなければもう一度**E**ボタンを押し、設定を確定させます。登録が完了すると、次のプログラムNo.を表示します。

続けて休憩終了時刻を設定します。

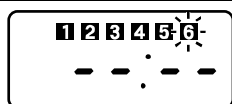
休憩開始・休憩終了は**必ずセット**で設定してください。

また、印字段切換時刻をまたいだ設定はできません。

11 曜日/時刻ボタンを押します



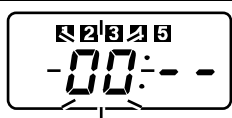
12 対象となる“曜日”を指定します



点滅している曜日に対して、指定する場合は**曜日 ON**、指定しない場合は**曜日 OFF**ボタンを押します。

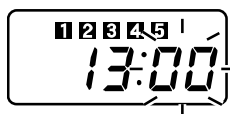
1月、**2**火、**3**水、**4**木、**5**金、**6**土、**7**日

13 “時刻”の指定に移動します



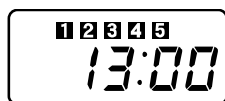
Eボタンを押すと“曜日”の設定が確定し、次の項目“時刻”が点滅します。

14 “時”を合わせます



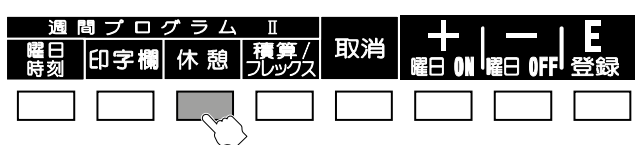
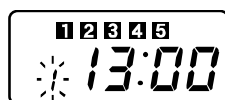
“時”を確認し、**+** **-** ボタンで“13”に合わせます。
押し続けると早送りします。
変更がなければ、そのまま**E** ボタンを押します。
E ボタンを押すと“分”が点滅します。
※“時”は 24 時制で設定します。

15 “分”を合わせます



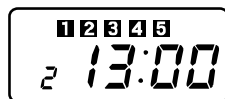
“分”を確認し、**+** **-** ボタンで“00”に合わせます。
押し続けると早送りします。
変更がなければ、そのまま**E** ボタンを押します。
E ボタンを押すと“分”の設定が確定します。

16 休憩ボタンを押します



休憩ボタンを押すと“休憩開始”が点滅します。

17 休憩終了時刻を設定します

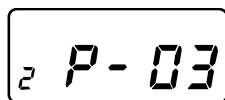


“休憩終了”を確認し、**+** **-** ボタンで“2”に合わせます。
押し続けると早送りします。
変更がなければ、そのまま**E** ボタンを押します。
E ボタンを押すと“休憩”の設定が確定します。

1:休憩開始

2:休憩終了

18 設定内容を確定させます



設定に間違いがなければもう一度**E** ボタンを押し、設定を確定させます。登録が完了すると、次のプログラムNo.を表示します。

19 上ぶたを閉めます (25 ページ参照)

引き続き設定を行う場合は曜日/時刻ボタンを押して、**3**~**18**の操作を行います。
すべての設定が完了しましたら、上ぶたを閉めます。

積算/フレックスの設定<EX9800>

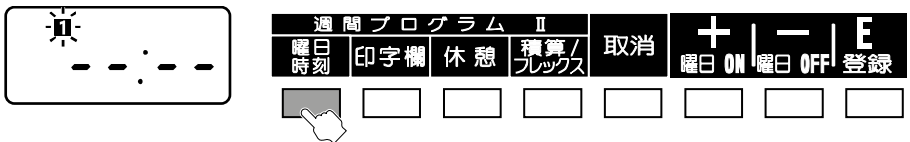
例:月～土 9:00 始業、17:30 終業と設定する

1 上ぶたを開けます (25 ページ参照)

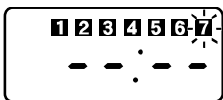
2 ダイヤルを回転させ、設定見出しを合わせます



3 曜日/時刻 ボタンを押します



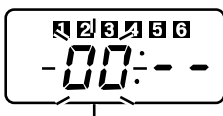
4 対象となる“曜日”を指定します



点滅している曜日に対して、指定する場合は **曜日 ON**、指定しない場合は **曜日 OFF** ボタンを押します。

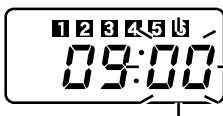
1月、**2**火、**3**水、**4**木、**5**金、**6**土、**7**日

5 “時刻”の指定に移動します



E ボタンを押すと“曜日”の設定が確定し、次の項目“時刻”が点滅します。

6 “時”を合わせます



“時”を確認し、**+** **-** ボタンで“09”に合わせます。
押し続けると早送りします。
変更がなければ、そのまま **E** ボタンを押します。
E ボタンを押すと“分”が点滅します。

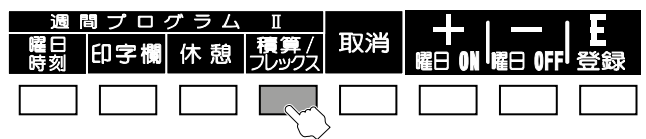
※“時”は 24 時制で設定します。

7 “分”を合わせます



“分”を確認し、**+** **-** ボタンで“00”に合わせます。
押し続けると早送りします。
変更がなければ、そのまま **E** ボタンを押します。
E ボタンを押すと“分”の設定が確定します。

8 積算/フレックスボタンを押します



積算/フレックスボタンを押すと“積算/フレックス”の項目が点滅します。

9 始業時刻の設定をします



“積算/フレックス”を確認し、**+** **-** ボタンで“01”に合わせます。押し続けると早送りします。

変更がなければ、そのまま**E**ボタンを押します。

Eボタンを押すと“積算/フレックス”の設定が確定します。

01:始業時刻

F1:フレックス開始時刻 1

02:終業時刻

F2:標準始業時刻 1

F3:標準終業時刻 1

F4:フレックス終了時刻 1

F5:フレックス開始時刻 2

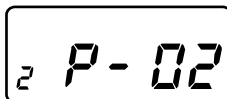
F6:標準始業時刻 2

F7:標準終業時刻 2

F8:フレックス終了時刻 2

残業積算とフレックスタイムはどちらか一方のみ設定できます。

10 設定内容を確定させます



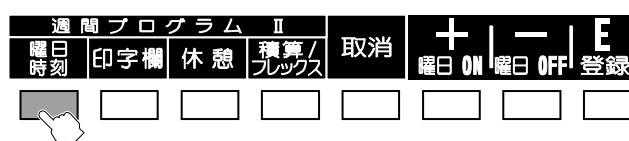
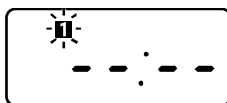
設定に間違いがなければもう一度**E**ボタンを押し、設定を確定させます。登録が完了すると、次のプログラムNo.を表示します。

続けて終業時刻を設定します。

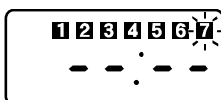
始業時刻・終業時刻は**必ずセット**で設定してください。

また、印字段切換時刻をまたいだ設定はできません。

11 曜日/時刻ボタンを押します



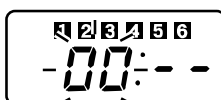
12 対象となる“曜日”を指定します



点滅している曜日に対して、指定する場合は**曜日 ON**、指定しない場合は**曜日 OFF**ボタンを押します。

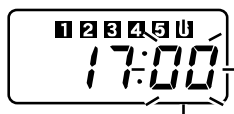
1月、**2**火、**3**水、**4**木、**5**金、**6**土、**7**日

13 “時刻”の指定に移動します



Eボタンを押すと“曜日”の設定が確定し、次の項目“時刻”が点滅します。

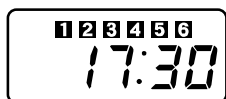
14 “時”を合わせます



“時”を確認し、**+** **-** ボタンで“17”に合わせます。
押し続けると早送りします。
変更がなければ、そのまま**E** ボタンを押します。
E ボタンを押すと“分”が点滅します。

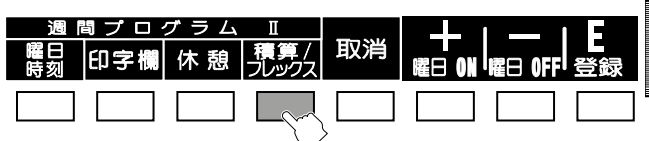
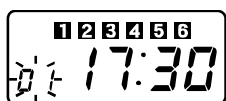
※“時”は 24 時制で設定します。

15 “分”を合わせます



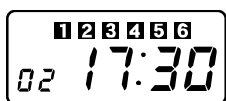
“分”を確認し、**+** **-** ボタンで“30”に合わせます。
押し続けると早送りします。
変更がなければ、そのまま**E** ボタンを押します。
E ボタンを押すと“分”の設定が確定します。

16 積算/フレックス ボタンを押します



積算/フレックス ボタンを押すと“積算/フレックス”の項目が点滅します。

17 終業時刻の設定をします



“積算/フレックス”を確認し、**+** **-** ボタンで“02”に合わせます。
押し続けると早送りします。
変更がなければ、そのまま**E** ボタンを押します。
E ボタンを押すと“積算/フレックス項目”の設定が確定します。

01:始業時刻

F1:フレックス開始時刻 1

02:終業時刻

F2:標準始業時刻 1

F3:標準終業時刻 1

F4:フレックス終了時刻 1

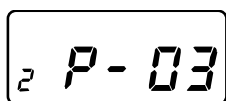
F5:フレックス開始時刻 2

F6:標準始業時刻 2

F7:標準終業時刻 2

F8:フレックス終了時刻 2

18 設定内容を確定させます



設定に間違いがなければもう一度**E** ボタンを押し、設定を確定させます。登録が完了すると、次のプログラムNo.を表示します。

19 上ぶたを閉めます (25 ページ参照)

引き続き設定を行う場合は曜日/時刻ボタンを押して、**3**~**10**の操作を行います。
すべての設定が完了しましたら、上ぶたを閉めます。

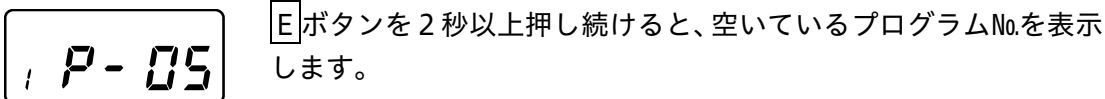
空いているプログラムNo.に設定を追加したい場合

1 上ぶたを開けます (25 ページ参照)

2 ダイヤルを回転させ、設定見出しを合わせます



3 空いているプログラムNo.を表示します



4 追加する内容を設定します

週間プログラムの各設定手順に従い、設定内容を追加します。

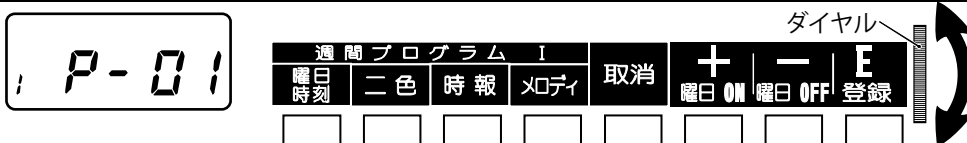
5 上ぶたを閉めます (25 ページ参照)

設定を取り消したい場合

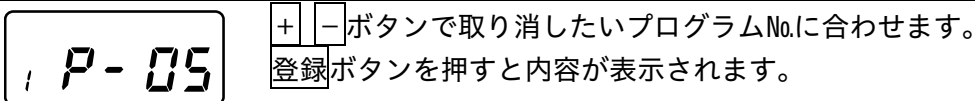
例:プログラムNo.5 の設定を取り消す

1 上ぶたを開けます (25 ページ参照)

2 ダイヤルを回転させ、設定見出しを合わせます

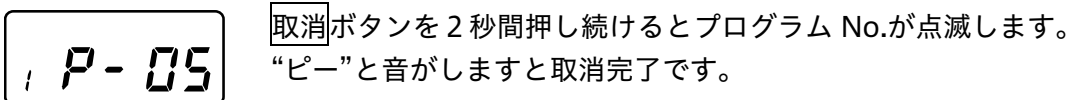


3 取り消したいプログラムNo.を表示します



※念のため、取り消す前にプログラムの内容をご確認ください。

4 プログラムを取り消します



5 上ぶたを閉めます (25 ページ参照)

印字が薄くなってきたら(リボンカセットの交換)

⚠ 警告



ぬれ手禁止

- ・ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。
感電のおそれがあります。

⚠ 注意



プラグを抜く

- ・電源プラグを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。
電源コードを引っ張るとコードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。



高温注意

- ・高温注意シールのところは触れない。
やけどの原因となることがあります。

お願い

上ケースを開けてリボンカセット交換等を行うときは、スチールデスクなどの大きな金属に触れて除電して(静電気を取り除いて)から作業してください。故障等の原因となることがあります。

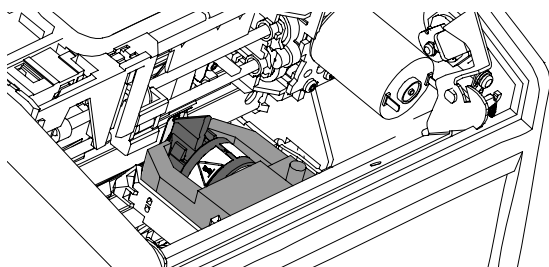
ご注意

誤って欄ボタン(項目ボタン)に触れると、設定が変わる恐れがあります。
欄ボタン(項目ボタン)に触れないようにご注意ください。

タイムカードの印字が薄くなった場合、リボンカセットを交換してください。

品名：CE-316350(黒色リボン:EX9000)、CE-316450(2色リボン:EX9100/9300/9800)

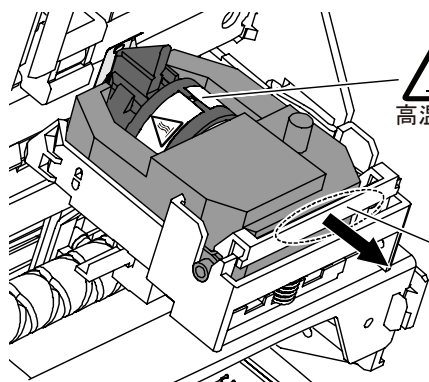
1 上ぶたを開けます(25 ページ参照)



上ぶたを開けるとプリンターヘッドがリボンカセットの交換ができる位置に移動します。
プリンターヘッドが止まってから、交換作業をしてください。

2 電源プラグをコンセントから抜きます

3 古いリボンカセットのロックを外します



印字動作により高温になる部分

高温注意

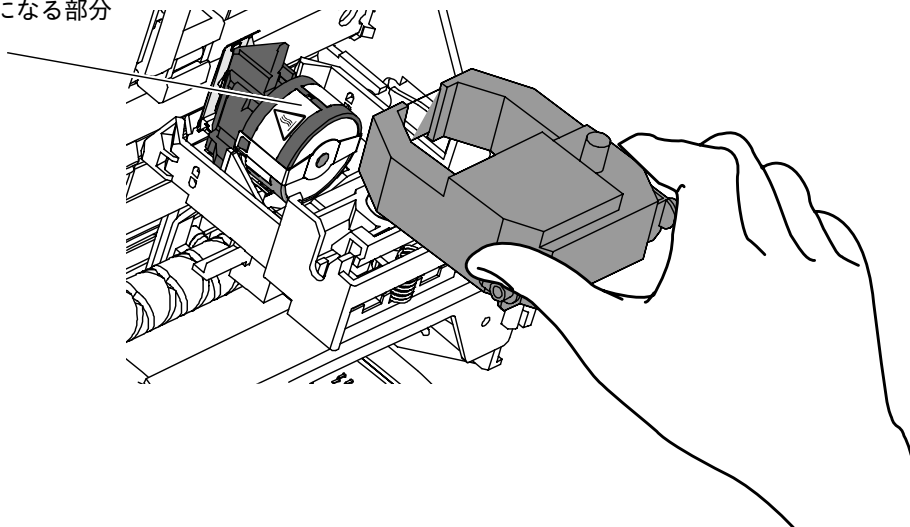
リボンカセット押さえ

“リボンカセット押さえ”を手前に引くとリボンカセットのロックが外れます。

4 古いリボンカセットを取り出します



印字動作により
高温になる部分



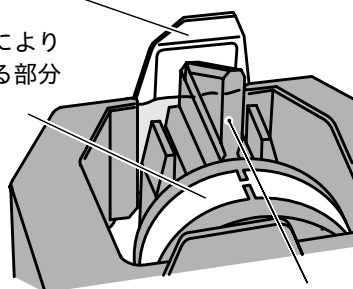
5 新しいリボンカセットを取り付けます

リボンは“リボンガイド(金属の板)”と“プリンターヘッド”の間を通します。

リボンガイド(金属の板)

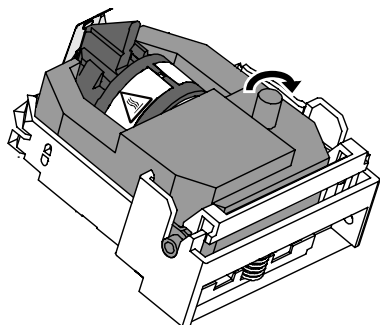


印字動作により
高温になる部分



プリンターヘッド
(黒いプラスチック)

6 リボンのたるみを取ります



リボンカセットのつまみを時計方向に回して、リボンのたるみを取ります。

7 上ぶたを閉めます (25 ページ参照)

8 電源プラグをコンセントに差し込みます

メロディ音量の調整、メロディグループの設定<EX9800>

内蔵している電子メロディの音量を調整することができます。

また、メロディグループを設定することで選択できるメロディを変更することができます。

⚠ 警告



ぬれ手禁止

- ・ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。
感電のおそれがあります。



分解禁止

- ・本取扱説明書で取り外す手順を説明した部位以外は、分解したり触れたりしない。
内部に電圧の高い部分があり、感電の原因となります。

⚠ 注意

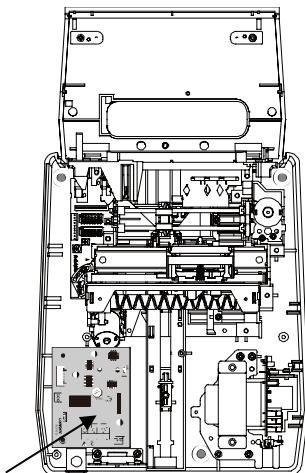


プラグを抜く

- ・電源プラグを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。
電源コードを引っ張るとコードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

1 前ケースを外します (12 ページ参照)

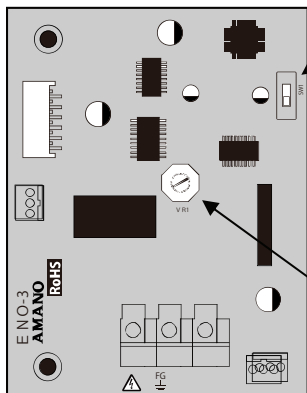
2 時報・メロディ基板を確認します



正面から見て左下に時報・メロディ基板があります。

時報・メロディ基板

3 メロディ音量を調整、メロディグループを選択します



スイッチ
(SW1)

ボリューム
(VR1)

ボリュームを回しメロディ音量を調整します。
(右に回すと音量が大きくなります)

スイッチを操作して、メロディグループを選択します。

スイッチ-下側

- 0:鳴らさない
- 1:グリーンスリーブス
- 2:峠の我が家
- 3:ウェストミンスター
- 4:二つのメヌエット




スイッチ-上側

- 0:鳴らさない
- 1:メヌエット
- 2:四季「春」
- 3:蛍の光
- 4:新世界より

4 前ケースを戻します (14 ページ参照)

親子機能(拡張機能・工場オプション)

親となるレコーダーと子となるレコーダーの歩進を同期させる機能です。

⚠ 警告	
 ぬれ手禁止	・ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。 感電のおそれがあります。
 分解禁止	・本取扱説明書で取り外す手順を説明した部位以外は、分解したり触れたりしない。 内部に電圧の高い部分があり、感電の原因となります。
⚠ 注意	
 プラグを抜く	・電源プラグを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。 電源コードを引っ張るとコードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

EX9000 シリーズの親子機能は、親時計が1分毎に出した信号を子時計が受けたときに、子時計の秒数を00秒に補正させる機能です。(1分同期) 分の修正を行う機能ではありません。

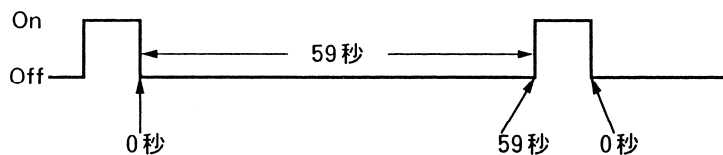
親時計からの信号を受けたときの、子時計の秒数によって秒が切り捨て・切り上げられます。

00秒～29秒のとき 秒数が切り捨てられます。(00秒になります)

30秒～59秒のとき 秒数が切り上げられます。(次の分の00秒になります)

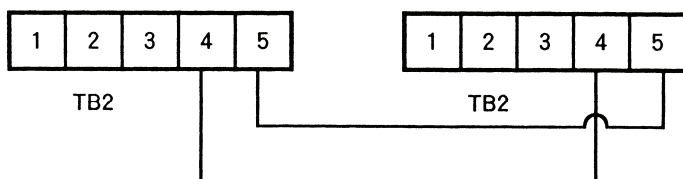
例 親時計からの信号を受けたときの、子時計の時刻が16時30分31秒とすると、子時計の時刻は16時31分00秒になります。

EX9000 シリーズ 親時計の出力信号



■親時計と子時計の接続するタイミング

親時計を現在の時刻に合わせてから、子時計の時刻を現在時刻から1～29秒進めてセットした後、親時計に接続してください。



フルパワーリザーブ機能をご使用の前に(バッテリー接続)

停電時にも印字動作などを可能にするための機能です。

フルパワーリザーブ機能(拡張機能・工場オプション)で使用するバッテリーは出荷時には接続されておりません。当機能をご使用になる前にバッテリーの接続が必要となります。

警告



ぬれ手禁止

- ・ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。
感電のおそれがあります。



分解禁止

- ・本取扱説明書で取り外す手順を説明した部位以外は、分解したり触れたりしない。
内部に電圧の高い部分があり、感電の原因となります。

注意



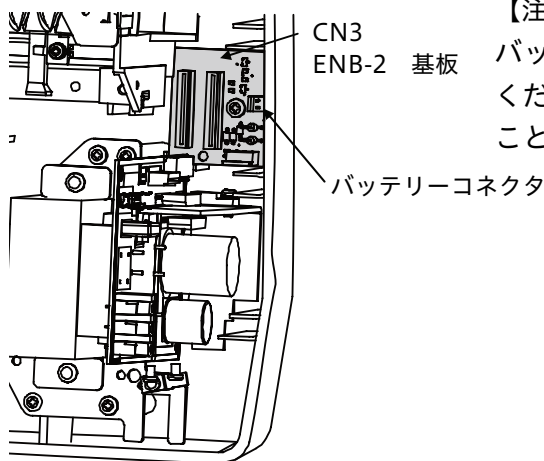
プラグを抜く

- ・電源プラグを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。
電源コードを引っ張るとコードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

【注意】バッテリーの接続は、電源プラグをコンセントに差し込む前に行ってください。

1 前ケースを外します (12 ページ参照)

2 バッテリーコネクタを接続します



【注意】




バッテリーコネクタは接続する向きに注意してください。逆向きに入れますと故障の原因となることがあります。

3 前ケースを戻します (14 ページ参照)





バッテリーの他にリチウム電池を内蔵していますので、内部時計は歩進しています。そのためバッテリーを接続し、電源プラグをコンセントに差し込みますと現在時刻が表示されます。

ニカド電池について (フルパワーリザーブ機能使用時)



⚠ 危険

 禁止	・電池を火の中に投入したり、加熱しない。 電池を破裂させる原因となります。	 禁止	・電池を指定機器以外に使用しない。 異常な電流が流れたりして、液もれ、発熱、破裂させる原因となります。
 分解禁止	・電池を分解、改造、直接ハンダ付けしない。 電池の液もれ、発熱、破裂の原因となります。	 指示	・電池の液(強アルカリ性)が目に入った場合は、失明の原因となります。こすらずにすぐにきれいな水で充分洗った後、ただちに医師の診察を受けてください。

⚠ 警告

 水ぬれ禁止	・電池を水や海水につけたりぬらさない。 電池を発熱させたり、錆の原因となります。また、錆が発生するとガス排出弁の機能が損なわれることがあり、その状態で使用すると破裂の原因となります。	 禁止	・電池の外装チューブを剥がしたり、キズをつけない。 電池を液もれ、発熱、破裂させる原因となります。
 禁止	・電池が液もれしたり、変形・変色・破損したり、またそれ以外に今までと異なることに気がついたときは使用しない。	 指示	・電池の液(強アルカリ性)が皮膚や衣服に付着した場合は、皮膚に障害を起こす原因となります。すぐにきれいな水で充分洗い流してください。

⚠ 注意

 禁止	・電池に強い衝撃を与えたり、投げつけたりしない。 電池を液もれ、発熱、破裂させる原因となります。
 指示	・電池のコネクタやリード線を持って電池を持ち運ばない。 電池の破損の原因となります。

■保守

ニカド電池(ニッケルカドミウム蓄電池)の耐用年数は2年間です。定期的に交換してください。ご使用済みのニカド電池は貴重な資源です。再利用しますので廃棄しないで弊社支店・営業所にお持ちください。



Ni-Cd

■仕様

停電時動作：バッテリー(フルパワーリザーブ)が満充電時の動作仕様は以下となります。

- 1) 時計歩進、2色切換、時報、メロディ、自動欄移動
- 2) 印字動作：200回、ただし72時間以内

種 類	ニカド電池(Ni-Cd)
電 圧	12V 600mAh
電池タイプ	円筒密閉型

時報線の接続のしかた

時報の結線工事については、内容により有資格者(電気工事士など)が行う必要があります。弊社支店・営業所までご用命ください。

こんなときには

故障かなと思ったら

警告



ぬれ手禁止

- ・ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。
感電のおそれがあります。



分解禁止

- ・本取扱説明書で取り外す手順を説明した部位以外は、分解したり触れたりしない。
内部に電圧の高い部分があり、感電の原因となります。

注意



プラグを抜く

- ・電源プラグを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。
電源コードを引っ張るとコードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

現象	原因と処理
カードが入らない	・停電中 (表示器が消灯) ⇨ 復電するまで待つ
	・電源コードが抜けている ⇨ 電源プラグをコンセントへしっかりと差し込む
	・カードを引き抜いたり無理に ⇨ 一度電源プラグを抜き、差し込み直す 押し込んだりした
“ピコピコピコッ”と音がして印字しない	・カード面を逆に挿入した ⇨ カードの表裏を反対にして挿入する
“ピーッ”と音がして印字しない	・カード挿入の失敗 ⇨ 軽く押しぎみに挿入する
時計が進まない	・停電中 ⇨ 復電するまで待つ
	・電源コードが抜けている ⇨ 電源プラグをコンセントへしっかりと差し込む
	・時計部の動作不良 ⇨ 一度電源プラグを抜き、差し込み直す
時計が遅れている (進んでいる)	・時計合わせの間違い ⇨ 「時刻の合わせかた」 P.27 参照
	・長時間の停電 ⇨ 「年月日・時刻の合わせかた」 P.26～27 参照
	・時計部の動作不良 ⇨ 一度電源プラグを抜き、差し込み直す
曜日・日付が違う	・日付合わせの間違い ⇨ 「年月日・時刻の合わせかた」 P.26～27 参照
印字がうすい (印字が欠ける)	・リボンカセットの寿命 ⇨ 「リボンカセットの交換」 P.52 参照
	・リボンカセットの装着間違い ⇨ 正しくセットし直す
印字段が違う	・縮日などの設定間違い ⇨ 縮日、空段、印字段切換時刻、日付、時刻の設定を確認する
印字欄が違う	・印字欄の選択間違い ⇨ 正しい印字欄を選択する
印字が流れる	・利用方法の間違い ⇨ 印字動作中カードを引き抜いたり、押し込んだりしない
欄ボタンが点灯しない (印字しない)	・プログラムの設定間違い ⇨ 自動欄移動を設定した場合は、印字フォーマットの 手動欄選択を手動欄選択：ありに設定する。 「印字フォーマットの変更」 P.33 参照

エラーコード一覧とメッセージ

エラー音がして、出退ボタンのランプが消えた場合は、本体内部で異常が発生しています。電源コードを一度抜き、10秒ほどしてから再度コンセントへ差し込んでください。

回復しない場合は上ぶたを開け、表示部のエラーコードを確認後、弊社支店・営業所または弊社タイムレコーダー・サポートセンターへご連絡ください。

コード	エラー内容	処置
Err 1	時計ホームポジションセンサーエラー	弊社支店・営業所、または弊社タイムレコーダー・サポートセンターへご連絡ください。
Err 2	欄ホームポジションエラー	
Err 3	印字タイミングセンサーエラー	
Err 4	表裏センサーエラー	
Err 5	欄区切りセンサーエラー	
Err 6	外部ノイズによる誤動作	
	週間プログラム設定内容異常	再度週間プログラムを設定してください。 回復しない場合は、弊社支店・営業所、または弊社タイムレコーダー・サポートセンターへご連絡ください。

よくあるご質問 Q & A

Q1. 違う日付に印字されてしまいます。

A1. 締日の設定が間違っていないか確認してください。(29 ページ参照)
工場出荷時には締日の設定が 31 日 (月末) に設定されています。

Q2. 前日に印字されてしまいます。

A2. 印字段切換時刻の設定が間違っていないか確認してください。(28 ページ参照)
工場出荷時には印字段切換時刻の設定が午前 3:00 に設定されています。

Q3. 曜日がずれてしまいます。

A3. 年月日が正しく設定されているか、確認してください。年は和暦ではなく西暦年下 2 桁で設定していただく必要があります。(26 ページ参照)

Q4. リボンカセットを交換した後、印字されなくなりました。

A4. リボンカセットの取り付け(装着)間違いの可能性が考えられます。正しくカセットを取り付けてください。(52~53 ページ参照) 特にリボンの位置にはご注意ください。

Q5. リボンカセットを交換した後、赤く印字されるようになってしまいました。
(EX9100/9300/9800)

A5. リボンがねじれてしまい、上下が逆になっている可能性が考えられます。リボンの上が黒、下が赤になっているか確認してください。

Q6. 出勤時刻と退勤時刻が異なった段に印字されてしまいます。

A6. 印字段切換時刻の変更が必要です。
工場出荷時には午前 3:00 に段が切り換わるように設定されています。
午前 3:00 を超える勤務が主な場合は、印字段切換時刻を 1 日の中で勤務されている方がいない時刻(一番遅く退勤打刻される方と一番早く出勤打刻されている方の間)に設定してください。(28 ページ参照)

Q7. 日付の切り換わりと同時に印字される位置も切り換えたいのですが。

A7. 印字段切換時刻は午前 0:00 に設定することで、日付の切り換わりと同時に印字段を切り換える設定になります。

Q8. タイムカードに印字しないで排出されてしまいます。

Q8. タイムカードの面を逆に挿入しています。タイムカードの表裏を反対にして、挿入してください。

警告



ぬれ手禁止

- ・ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。
感電のおそれがあります。



スプレー禁止

- ・可燃性のスプレー（ほこり除去スプレー、殺虫スプレー、除菌スプレーなど）を噴霧しない。
火災・爆発の原因になります。



有機溶剤禁止

- ・有機溶剤（ベンジン、シンナー、除光液など）を使用しない。
変形・溶解して、感電や火災の危険があります。

注意



プラグを抜く

- ・電源プラグを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。
電源コードを引っ張るとコードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

日常のお手入れ

■ 普段のお手入れ

ケースの汚れは乾いた柔らかい布（綿・ネルなど）で軽く拭き取ってください。

※硬い布で拭いたり強くこすったりすると、ケースの表面に傷がつきますのでご注意ください。特に窓ガラスは柔らかい布で乾拭きしてください。

（表面は特殊加工されていますので、ご注意ください）

■ 汚れがひどいときは

汚れがひどいときは、水で薄めた中性洗剤にひたした柔らかい布（綿・ネルなど）を固くしぼったもので拭き取り、その後、柔らかい乾いた布で乾拭きしてください。

※本体および電源コード類に有機溶剤（ベンジン、シンナー、除光液など）を使用しないでください。変形・溶解して、感電や火災の危険があります。

■ 電源プラグも定期的にお手入れ

トラッキング火災防止のため、電源プラグも定期的にお手入れしてください。

（トラッキング火災：差しっぱなしのコンセントにほこりと水分が溜まり、プラグとの間にスパークが発生し、出火するという火災です）

お手入れの際は必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

電源プラグについたほこりのお掃除は乾いた手で電源プラグを抜き、乾いた布で拭き取ります。また、コンセントの周辺のほこりも取り除いてください。

製品仕様

使用電源：AC100V \pm 10% (50/60Hz)

消費電力：常時 5 W、定格 13W

環境条件：温度 - 10°C \sim 45°C

湿度 10%RH \sim 90%RH (結露のないこと)

外形寸法：幅 260 mm \times 奥行 180 mm \times 高さ 320mm

質量：3.5kg

時計方式：水晶発振方式 通電時 通電時週差 \pm 3秒 (25 \pm 5°C)

メモリ保持機能：リチウム電池にて工場出荷時より停電累計時間で3年間

(内部時計以外の機能はすべて停止します)

停電時の打刻はできません。

フルパワーリザーブ：72時間または200打刻のどちらかに達するまで、すべての機能

(停電時印字機能) がお使いいただけます。【拡張機能・工場出荷オプション】

フルパワーリザーブで動作しているときは欄ボタンが点滅します。

消耗品・別売品

アマノ標準タイムカード (1箱 100枚)

JAN : JAN コードを表します。

[標準] Aカード
月末/15日締め用



JAN : 4946267100014

[標準] Bカード
20日/5日締め用



JAN : 4946267100021

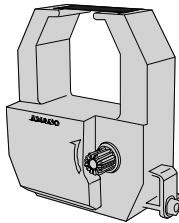
[標準] Cカード
25日/10日締め用



JAN : 4946267100038

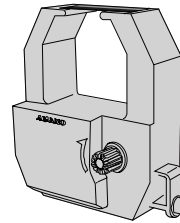
[標準] Dカード(日付印刷なし) JAN : 4946267100045

リボンカセット
EX9000用



品名 CE-316350 黒色リボン
JAN:4946267120067
単色 : 黒

リボンカセット
EX9100/9300/9800用



商品 CE-316450 二色リボン
JAN:4946267120074
2色 : 黒・赤

カードラック (サイズの単位は mm です。)



品名 : 12S
JAN : 4946267110280
12枚差し (PS樹脂製)
幅 101×奥行 32×高さ 491(mm)
(再生材 20%以上使用)



品名 : 20S
JAN : 4946267110297
20枚差し (PS樹脂製)
幅 101×奥行 32×高さ 683(mm)
(再生材 20%以上使用)



品名 : 50S
JAN : 4946267110853
50枚差し (PS樹脂製)
幅 206×奥行 32×高さ 806(mm)
(再生材 20%以上使用)

■デザイン・仕様は予告なく変更することがございます。

週間プログラム設定表

プログラム No.	曜日	時分	週間プログラム I				週間プログラム II		
			2色	時報	メロディ	印字欄	休憩	積算/フレックス	
01	月火水木金土日	9:01	(R)	B	×	×		1	2
02	月火水木金土日	17:30	R	(B)	○	2		1	2

プログラム No.	曜日	時分	週間プログラム I				週間プログラム II		
			2色	時報	メロディ	印字欄	休憩	積算/フレックス	
01	月火水木金土日	:	R	B				1	2
02	月火水木金土日	:	R	B				1	2
03	月火水木金土日	:	R	B				1	2
04	月火水木金土日	:	R	B				1	2
05	月火水木金土日	:	R	B				1	2
06	月火水木金土日	:	R	B				1	2
07	月火水木金土日	:	R	B				1	2
08	月火水木金土日	:	R	B				1	2
09	月火水木金土日	:	R	B				1	2
10	月火水木金土日	:	R	B				1	2
11	月火水木金土日	:	R	B				1	2
12	月火水木金土日	:	R	B				1	2
13	月火水木金土日	:	R	B				1	2
14	月火水木金土日	:	R	B				1	2
15	月火水木金土日	:	R	B				1	2
16	月火水木金土日	:	R	B				1	2
17	月火水木金土日	:	R	B				1	2
18	月火水木金土日	:	R	B				1	2
19	月火水木金土日	:	R	B				1	2
20	月火水木金土日	:	R	B				1	2
21	月火水木金土日	:	R	B				1	2
22	月火水木金土日	:	R	B				1	2
23	月火水木金土日	:	R	B				1	2
24	月火水木金土日	:	R	B				1	2
25	月火水木金土日	:	R	B				1	2

プログラム No.	曜日	時分	週間プログラム I			週間プログラム II		
			2色	時報	メロディ	印字欄	休憩	積算/フレックス
26	月火水木金土日	:	R	B			1	2
27	月火水木金土日	:	R	B			1	2
28	月火水木金土日	:	R	B			1	2
29	月火水木金土日	:	R	B			1	2
30	月火水木金土日	:	R	B			1	2
31	月火水木金土日	:	R	B			1	2
32	月火水木金土日	:	R	B			1	2
33	月火水木金土日	:	R	B			1	2
34	月火水木金土日	:	R	B			1	2
35	月火水木金土日	:	R	B			1	2
36	月火水木金土日	:	R	B			1	2
37	月火水木金土日	:	R	B			1	2
38	月火水木金土日	:	R	B			1	2
39	月火水木金土日	:	R	B			1	2
40	月火水木金土日	:	R	B			1	2
41	月火水木金土日	:	R	B			1	2
42	月火水木金土日	:	R	B			1	2
43	月火水木金土日	:	R	B			1	2
44	月火水木金土日	:	R	B			1	2
45	月火水木金土日	:	R	B			1	2
46	月火水木金土日	:	R	B			1	2
47	月火水木金土日	:	R	B			1	2
48	月火水木金土日	:	R	B			1	2
49	月火水木金土日	:	R	B			1	2
50	月火水木金土日	:	R	B			1	2